
3R推進団体連絡会 第二次自主行動計画
2014年フォローアップ報告

(2013年度実績)

2014年12月

3R推進団体連絡会

ガラスびん3R促進協議会
PETボトルリサイクル推進協議会
紙製容器包装リサイクル推進協議会
プラスチック容器包装リサイクル推進協議会
スチール缶リサイクル協議会
アルミ缶リサイクル協議会
飲料用紙容器リサイクル協議会
段ボールリサイクル協議会

はじめに

第二次自主行動計画フォローアップ報告（2013年度実績）をお届けします

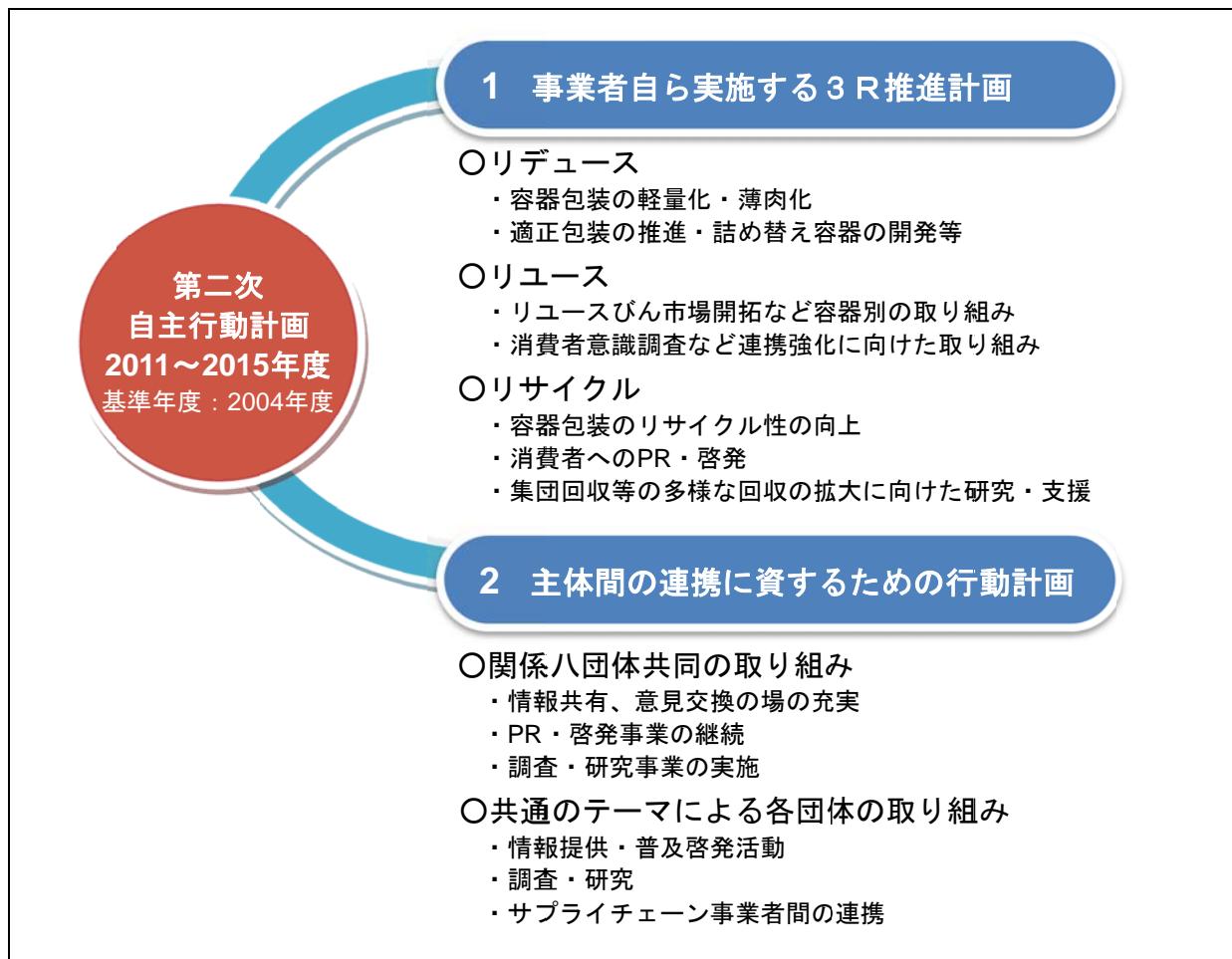
食料品や飲料、日用品など私たちの身近な商品に使われる容器包装は、中身の保護や安全・安心の確保、消費者への情報提供など様々な機能を担っています。環境への適応も大切な機能のひとつであり、循環型社会の形成に向けては容器包装の3R（リデュース・リユース・リサイクル）の推進が求められています。

「容器包装3Rのための第二次自主行動計画」は、容器包装の素材に係るリサイクル八団体（以下、「関係八団体」）からなる3R推進団体連絡会（以下、「当連絡会」）が

- I. 事業者自らが容器包装3Rの取り組みを推進すること
- II. 市民や行政などの関係主体間の連携に資すること

を目的に策定した計画であり、毎年度の進捗状況は翌年12月にフォローアップ報告として公表しています。

本報告書は、2015年度を目標年次とする第二次自主行動計画の3年目にあたる、2013年度の取り組み実績をまとめたものです。



当連絡会の結成からこれまでの経緯、そして今後へ向けて

2000年に完全施行された容器包装リサイクル法は、2006年6月にはじめての改正が行われました。改正に先立つ1年半にわたる産業構造審議会・中央環境審議会での議論の過程で、社団法人

(当時) 日本経済団体連合会は2005年10月に提言「実効ある容器包装リサイクル制度の構築に向けて」を取りまとめ、事業者の自主的な取り組みが重要であること等を表明しました。

2005年度

3R推進団体連絡会の結成 (2005.12)

第一次自主行動計画の公表 (2006.3)



2010年度

第二次自主行動計画の公表 (2011.3)

第一次自主行動計画の目標年次

これを受け2005年12月、関係八団体は「3R推進団体連絡会」を結成し、「容器包装リサイクル法の目的達成への提言」と題する提言を行い、事業者の決意をあらためて表明すると共に、翌2006年3月に第一次の自主行動計画を発表しました。

2014年度

2013年度実績フォローアップ



2015年度

第二次自主行動計画目標年次

第一次自主行動計画の目標年次は2010年度でした。

関係八団体が共通の目標を持って事業者自らの取り組みを進めたこと、さらに、関係主体間の連携に資する取り組みの中で、消費者、自治体、関係事業者、NPOや学識経験者等の多大なご協力をいただいたことにより、容器包装3Rの推進に一定の成果があげられました。

現行の第二次自主行動計画の目標年次である2015年度に向け、事業者としての役割の深化と主体間の連携推進に向け、より一層努力して参る所存です。

最後になりましたが、当連絡会及び構成団体の活動にご理解とご協力を賜りました関係各位に心より御礼申し上げます。

目 次

I	容器包装3Rの2013年度実績	1
1.	リデュースの取り組み	1
2.	リユースの取り組み	3
3.	リサイクルの取り組み	4
II	連携のための共同の取り組み	7
1.	各主体との交流と意見交換	8
2.	普及・啓発	11
III	各団体の取り組み	13
1.	ガラスびん3R促進協議会	13
2.	PETボトルリサイクル推進協議会	17
3.	紙製容器包装リサイクル推進協議会	21
4.	プラスチック容器包装リサイクル推進協議会	25
5.	スチール缶リサイクル協会	29
6.	アルミ缶リサイクル協会	34
7.	飲料用紙容器リサイクル協議会	39
8.	段ボールリサイクル協議会	43
IV	資 料	47
1.	数表	47
2.	各団体連絡先一覧	50

I 容器包装3Rの2013年度実績

1. リデュースの取り組み

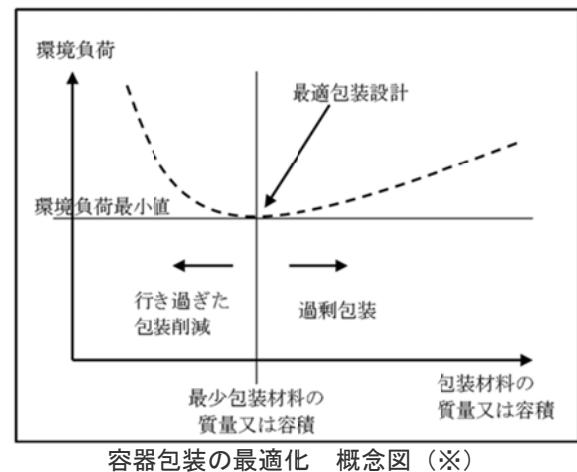
「容器包装の機能と資源の節約の両立」を目指し、着実に取り組みを進めています。

■資源使用量削減に向けた様々な取り組み

容器包装には「内容物の保護」「取り扱いの利便性向上」「消費者への情報提供」といった役割があり、こうした機能と環境負荷低減とのバランスにも配慮していく必要があります。このことを前提に、当連絡会を構成する各団体では、それぞれの素材の特性に応じた取り組みを展開しています。

ガラスびん、PETボトル、紙製容器包装では、3Rの考え方も含む環境配慮のための自主設計ガイドラインを策定しています。最も多様な材質、形態を有するプラスチック容器包装においては、環境配慮設計を推進するための自主設計指針の検討を、プラスチック容器包装リサイクル推進協議会が進めています。

また、容器包装を利用したり製造したりする事業者が活用できるよう、「3R改善事例集」を作成するなど、軽量化や薄肉化等を促進する取り組みが各団体にて行われています。



容器包装の最適化 概念図 (※)

軽量化したびん入り商品

ガラスびんは厚みを薄くし、軽くすることで、環境負荷の軽減を図ります

3Rのリデュースとは、モノをつくる時に原料を減らして資源を節約することですが、ガラスびんは厚みを薄くし、軽量化することで、リデュースを進めています。びんを軽量化することで、原料の節約だけでなく、燃料やCO₂排出量の削減にもつながり、さらに軽くなった分、輸送効率も向上するなど、環境負荷を軽減しています。

ここでは、身近にある「軽くなったびん入り商品」をご紹介します。

小びんドリンク	化粧品	食料	調味料
牛乳	清酒	ビール	ウイスキー
焼酎	ワイン・その他洋酒	飲料ドリンク	飲料

商品種は日本ガラスびん協会の分類に準拠します。

現在の登録状況 ●掲載会社: 21社 ●登録商品: 41点

3R改善事例集 第7版

3R改善事例集 II

3R改善事例情報の活用例

※資料：産業構造審議会産業技術環境分科会廃棄物・リサイクル小委員会容器包装リサイクルワーキンググループ
中央環境審議会循環型社会部会容器包装の3R推進に関する小委員会 第14回合同会合 参考資料1

事業者としては、今後とも消費者・市場との対話を心がけ、機能と環境負荷低減のバランスの取れた包装を推進していく方針です。各団体別の取り組み、例えば包装の適正化の推進や詰め替え容器の開発・普及等、関連企業への周知徹底などの取り組みにつきましては、「各団体の取り組み」をご覧ください。

■2013年度のリデュース実績

素材毎の2015年度目標に対する2013年度の実績値は下の表1に示すとおりです。

目標年次である2015年度に向け、容器包装のリデュースは着実に進んでおり、すでに6つの素材が当初目標を達成しました。さらに5素材が目標を上方修正し、取り組みを進めています。

表1 リデュースに関する2013年度実績（2004年度比）

素材	2015年度目標 (2004年度比) (※1)	2013年度 実績	2006年度からの 累計削減量	備考
ガラスびん	1本当たりの平均重量で2.8%の軽量化	1.7%	163千トン	
PETボトル	指定PETボトル全体で15%の軽量化効果	14.1%	333千トン	2015年度目標を10%から上方修正
紙製容器包装	総量で11%の削減	9.6%	915千トン	2015年度目標を8%から上方修正
プラスチック容器包装	削減率で13%	13.0%	61.7千トン	
スチール缶	1缶当たりの平均重量で5%の軽量化	5.7%	140千トン	2015年度目標を4%から上方修正
アルミ缶	1缶当たりの平均重量で4.5%の軽量化	4.1%	60千トン	2015年度目標を3%から上方修正
飲料用紙容器	牛乳用500ml紙パックで3%の軽量化 (※2)	1.6%	419トン	
段ボール	1m ² 当たりの平均重量で5%の軽量化	3.8%	1,310千トン	2015年度目標を1.5%から上方修正

※1 各団体の目標値については、必要に応じて見直しを検討する。

※2 2005年度比。紙パック原紙の仕様レベルで比較

2. リユースの取り組み

地域循環を目指して～ガラスびんリユースシステムの構築～

■地域に根ざした取り組みでリユースびん入り飲料が続々登場

リユースに最も適した飲料食品容器はガラスびんです。しかし、流通構造や消費者のライフスタイルの変化により、ガラスびんのリユースシステムは経年的な使用量減少に歯止めがかからっていないのが現状です。

ガラスびん3R促進協議会では、持続可能なリユースシステムのひとつとして、消費者・自治体・事業者の連携による地域型システムの構築に取り組んでおり、2013年度は環境省の実証事業における取り組みを進めました。また、ウェブサイト「リターナブルびんポータルサイト」での情報発信にも引き続き取り組んでいます。

奈良県におけるリユースびんを用いた大和茶飲料「と、わ(To WA)」

奈良県におけるリユースびんを用いた大和茶飲料「と、わ(To WA)」は、地域で採れた茶葉を地域で消費し、ごみを出さず、今ある資源を今までにない新しい商品として、奈良の街をめぐらすことを目的としたリユースびん入り大和茶です。

公共施設での導入

本商品の販売やイベント開催を通して、リユースの重要性を訴えるため、公共施設で利用されるリユースびんを飲料販売に導入する取り組みを実施。現在、奈良市・生駒市で実施しています。

受賞歴

平成25年度グリーン購入ネットワーク(GPN)主催「第15回グリーン購入大賞」生駒市が優秀賞を受賞。

利用状況

奈良県内を中心に、現在約55店舗で取り扱い。今後も普及拡大に向けてアプローチしてまいります。

岡山県産ほうじ茶リユースびん入り

岡山県産ほうじ茶リユースびん入り飲料「晴・Re・茶」は、Reuseはリユース、環境にやさしいです。

大阪市におけるリユースびん入り飲料「茶々」

大阪市におけるリユースびん入り飲料「茶々」は、大阪市産茶葉「茶々」、くり返し使えるリユースびんを使用した「カラダ」「環境」にやさしいほうじ茶飲料です。

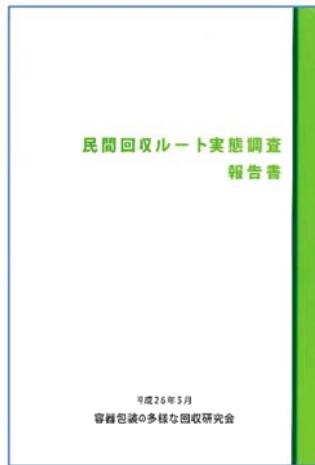
3. リサイクルの取り組み

環境配慮設計の推進と安定的かつ多様な再商品化ルートの構築 ～両面から取り組みを進めています～

■リサイクル推進に向けた素材ごとの取り組み

素材の組み合わせの簡素化、潰しやすさ・折りたたみやすさの向上など、設計段階で容器包装のリサイクル性を高めるための様々な取り組みが進められています。リデュースと同様、容器包装本来の機能性とのバランスに配慮する必要があるため、各団体では前述の「3R改善事例集」の作成や環境配慮設計ガイドラインの検討、改善などを行っています。

また、使用済み容器包装の安定的かつ多様な再商品化ルートの構築に向け、アルミ缶・スチール缶や飲料用紙容器等の集団回収や拠点回収・店頭回収といった既存の回収ルートにおける各種支援・実証実験、自治体分別収集実態の情報収集と発信、PETボトルの水平リサイクル（ボトル to ボトル）への取り組みなど、様々な取り組みを展開しています。



紙製容器包装の組成分析調査

自主設計ガイドライン



リサイクル団体等への表彰



再利用品のカタログ



回収ボックスの提供

■2013年度のリサイクル実績

素材毎の2015年度目標に対する2013年度のリサイクル実績値は、表2に示すとおりです。

8素材中5素材が当初目標を達成しており、2素材が目標を上方修正しています。

目標達成に向け、引き続き素材ごとの取り組みを展開すると共に、リサイクルフローの捕捉率の向上等にも取り組んでいきます。

表2 リサイクルに関する2013年度実績

素材	指標（※1）	2015年度目標	2013年度実績	備考
ガラスびん	リサイクル率 (カレット利用率)	70%以上 (97%以上)	67.3% (99.0%)	
PETボトル	リサイクル率	85%以上	85.8%	
紙製容器包装	回収率	25%以上	23.5%	2015年度目標を 23%から上方修正
プラスチック 容器包装	再資源化率	44%以上	44.4%	
スチール缶	リサイクル率	90%以上	92.9%	2015年度目標を 85%から上方修正
アルミ缶	リサイクル率	90%以上	83.8%	
飲料用紙容器	回収率	50%以上	44.6%	
段ボール	回収率	95%以上	99.4%	

※1 指標の定義は次ページ参照。各団体の目標値については、必要に応じて見直しを検討する。

補足：リサイクルの指標について

2002年に経済産業省設置の委員会が策定した「資源循環指標ガイドライン」（以下、「ガイドライン」という。）では、リサイクルを評価する指標として、「回収率」（使用済製品の回収された割合）、「再資源化率」（回収された製品の内、再資源化された割合）、「回収・再資源化率」（回収率×再資源化率）をあげています。

当連絡会では、ガイドラインを踏まえ回収量や再資源化量の把握に努めると共に、必要に応じて既存の指標の見直しを行ってきました。表2の中で、指標が「リサイクル率」となっているものは、ガイドラインの定義する「回収・再資源化率」にはほぼ準拠しています。また、回収ルートや再資源化ルートが多岐にわたるなどして「回収・再資源化率」の把握が困難な素材では、回収率や再資源化率といった指標を用いています。

各団体とも継続的にデータの補足範囲の拡大及び精度の向上に向けた取り組みを進めています。したがって、今後の自主行動計画の見直しにおいて、目標に用いる指標を変更する可能性があります。なお、第二次自主行動計画の2015年度目標値については、前倒しで目標達成がなされた場合などにおいて適宜見直しを図っていきます。表3に素材ごとのリサイクル指標の定義一覧を示します。

表3 リサイクルに関する指標の定義一覧

素 材	指標の定義及び備考
ガラスびん	$\text{リサイクル率} = \frac{\text{再生利用目的で利用事業者(※1)に引渡されたカレット総重量}}{\text{ガラスびん国内出荷総重量 (出荷量+輸入量-輸出量)}}$ $\text{カレット利用率} = \frac{\text{ガラスびんの原料に利用されるカレット総投入量}}{\text{ガラスびん生産量}}$ <p>※1 ガラスびん製造メーカー+その他用途事業者</p>
PETボトル	$\text{リサイクル率} = \frac{\text{リサイクル量 (国内再資源化量※1+海外再資源化量※2)}}{\text{国内PETボトル販売量}}$ <p>※1 国内再資源化量=国内向け回収量×再資源化率（フレークまたはペレット） ※2 海外再資源化量はフレーク又はペレット換算で、PET推進協調査から算出</p>
紙製容器包装	$\text{回収率} = \frac{\text{紙製容器包装の回収実績 (※1)}}{\text{紙製容器包装の家庭からの排出量 (※2)}}$ <p>※1 回収物の組成分析調査、市町村アンケート調査より行政回収量・集団回収量を推定 ※2 家庭からの排出量モニター調査より推定</p>
プラスチック容器包装	$\text{再資源化率} = \frac{\text{再商品化量 (※1) +店頭回収など自主的に回収した量 (※2)}}{\text{排出見込み量 (※1)}}$ <p>今後様々なリサイクル手法が用いられる可能性が高いことから、分子に現在把握可能な自主的な回収量を加え、指標の名称を再資源化率としている。 ※1 公益財団法人 日本容器包装リサイクル協会公表値 ※2 実測値</p>
スチール缶	$\text{リサイクル率} = \frac{\text{国内鉄鋼会社等によるスチール缶(Cプレス・Cシュレッダー等)の購入量(※1)}}{\text{スチール缶(食缶・該当18L缶・一般缶)の国内消費量(出荷量+輸入量-輸出量)}}$ <p>※1 購入量は、アルミ蓋・水分・異物等を除いて鉄鋼メーカーが購入利用した重量</p>
アルミ缶	$\text{リサイクル率} = \frac{\text{再生地金等の製造に使用済みアルミ缶を利用した重量 (※1)}}{\text{国内で出荷された缶重量 (塗料を除く)}}$ <p>※1 分子は二次合金メーカーの工場入口トラックスケールを元に、組成率を加味して算出</p>
飲料用紙容器	$\text{回収率} = \frac{\text{国内飲料用紙パック回収量}}{\text{飲料用紙パック原紙使用量}}$ <p>※1 産業損紙・古紙を含む</p>
段ボール	$\text{回収率} = \frac{\text{段ボール古紙実質回収量 (※1)}}{\text{段ボール原紙消費量 (※2) +輸出入商品用 (※3)}}$ <p>※1 回収された段ボール古紙に含まれる段ボール以外の古紙及び段ボールに付着した糊の重量を除いて計算したもの ※2 段ボール工場における段ボール原紙消費量 ※3 輸出入商品を梱包する段ボールの入超推定量</p>

II 連携のための共同の取り組み

各主体との意見交換や市民との協働、展示会やイベントでの普及啓発等、多様な取り組みを展開しました。

関係主体間の連携に資するため、当連絡会では「調査・研究」「各主体との交流・意見交換」「普及・啓発」の3本の柱に沿って、継続的な取り組みを進めてきました（表4）。次ページより、2013年12月から2014年11月までの取り組みの成果を紹介します。

表4 主体間連携のための共同の取り組みの実施状況

年 度	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
調査・研究					容器包装3R制度研究会				
							公開ヒアリング	報告書のまとめ	
				消費者意識調査		消費者意識調査			
								各主体との意見交換会	
		3Rリーダー交流会			地域でのリーダー育成				
				小冊子「リサイクルの基本」を作成	「リサイクルの基本」完成	川崎市でのワークショップ	川崎市でのワークショップ	川口市でのワークショップ	川口市、国分寺市、相模原市でのワークショップ
	容器包装3R連携市民セミナー								
	東京都	北九州市 川崎市	京都市	仙台市	名古屋市	福岡市	札幌市	東京都	長野市、松山市、名古屋市(予定)
	容器包装3R推進フォーラム								
	横浜市	神戸市	東京都	京都市	さいたま市	名古屋市	仙台市	川崎市	東京都
各主体との 交流・意見 交換					マスコミとの懇談会				
	3R活動推進全国大会への出展				東京国際包装展			3R活動推進全国大会出展	
									東京国際包装展 出展
	エコプロダクト展への出展								
	共通ポスター作成		ホームページ開設		小冊子「リサイクルの基本」配布				
普及・啓発						啓発用パンフ作成			啓発用パンフ改訂
			AC支援による啓発事業						

1. 各主体との交流と意見交換

■忌憚のない意見交換を通じ、様々な角度から各主体の相互理解を深めていく ～意見交換会「容器包装3R交流セミナー」の開催～

容器包装の3R推進、今後のあり方や市民・自治体との信頼や連携の強化など、各主体との意見交換や交流を深めるため、当連絡会では3R活動推進フォーラムとの共催で「容器包装の3Rに関する市民・自治体等との意見交換会」を2013年度より開催しています。

2014年度は「容器包装3R交流セミナー」と題し、長野市（2014年7月25日）、松山市（11月7日）でそれぞれ41名、40名の参加者を得て、「分別収集・再商品化」「事業者の3Rの取り組み」「情報共有のあり方」「環境配慮設計」など多様なテーマで意見交換を行いました。第3回は2015年2月20日に名古屋市で開催を予定しています。



長野市（左）、松山市（右）での意見交換会の様子

■川口市版リサイクルの基本が完成～「地域版」ワークショップ～

2007年度より実施してきた消費者リーダーとの交流会では、ひとつの成果として3R啓発小冊子「リサイクルの基本」が完成し、全国の自治体等でご活用いただいている。次のステップでは『「地域版」リサイクルの基本』を地域住民と共に作り上げるプロジェクトがスタートし、まず2012年度に「かわさきスマートリサイクル ごみの分別・資源化ガイド」が完成しました。

2013年度からは、川口市版「リサイクルの基本」づくりに向け、川崎市・川口市両市のメンバーの意見交換、さらには川口市民・行政、消費者リーダー、当連絡会が協働して『「地域版」リサイクルの基本』づくりに取り組んできました。

そして2014年10月、『きらり川口リサイクル ごみまるが教える！7つのポイント』が完成しました。「ごみまる」は川口市のごみ減量キャンペーンキャラクターです。

ごみをきちんと分けてリサイクルしないと色が変わっちゃうぞ！



川口市版リサイクルの基本

ご当地キャラクターごみまるを用いて川口市らしいオリジナルな「リサイクルの基本」となりました。



川口市版「リサイクルの基本」編集会議



川口市リサイクルプラザでの
一般市民によるリーフレットへの
シール投票

■相模原市・国分寺市で市民との協働の輪が広がる～3R市民リーダー育成プログラム～

「3R市民リーダー育成プログラム」は、都内の消費者リーダーの方々が2011年度から検討し作り上げた、一般消費者への「リサイクル」の伝え方やイベント等で使える講座プログラムを、地域の3R市民リーダー（以下、「3Rリーダー」）の方々にご活用いただいたり、リーダー育成に役立てたりしてもらおうという事業です。

今年度はNPO法人持続可能な社会を作る元気ネットを事務局として、相模原市、国分寺市にご協力いただき取り組みを進めているところです。

相模原市では、教員志望の若い新規3Rリーダー、先輩3Rリーダー、相模原市職員、そして当連絡会メンバーで数回の会合を開き、3Rに関する学習、イベントにおける発表内容等を検討しました。そして、10月19日に開催された相模原市リサイクルフェアでは、3R市民劇場（寸劇）と「リサイクルクイズ de ビンゴ」を発表、続く10月29日に同じく相模原市で開催された「3R推進全国大会」ではブース出展を行うと共に、シンポジウム第Ⅱ部で壇上にて3R市民劇場を発表しました。



相模原市リサイクルフェアでの発表（左）



3R市民劇場

国分寺市は、廃棄物減量等推進員を公募市民に委嘱する取り組みを以前から行っていますが、今年度の新規3Rリーダー育成に「3R市民リーダー育成プログラム」をご活用いただく形で、3R講座のプログラム作成や「国分寺環境まつり」への参加などを協働で検討を進めています。

その他、東京都中央区や世田谷区における出張講座（リサイクルクイズ de ビンゴ）も行いました。



国分寺市での取り組みの様子

■各主体の先進的な取り組みを共有～容器包装3R推進フォーラム～

「容器包装3R推進フォーラム」は、第一次自主行動計画の初年度から毎年度開催地を変えつつ開催している、息の長い取り組みです。毎回のフォーラムには自治体関係者や市民団体、地域住民の方々等がご参加いただいており、容器包装3Rと分別収集の先進的な取り組み事例の学習、それらに係わる情報交換・議論等のプログラムを通じ、消費者・自治体・事業者がどのような連携の形を目指したらよいかを話し合い、方向性を共有していくことを目指しています。

通算で8回目となる2013年度のフォーラムは、リデュース・リユース・リサイクルの各分野における関係各主体の先進的な取り組み事例の情報共有をテーマに、川崎市産業振興会館にて2014年2月20日に開催されました。会場には約140人の参加者が訪れ、国の政策動向や各種先進事例の報告、「リデュース」「リユース」「リサイクル」の各セッションで熱心な討議等が繰り広げられました。



フォーラムにおける意見交換の様子

2. 普及・啓発

■改訂版を作成～小冊子「リサイクルの基本」、及び 啓発パンフレット「未来へつながる3R社会をめざして」～

小冊子「リサイクルの基本」はホームページで公開しているほか、ご希望の自治体、団体等には無償配布しており、2014年11月までに累計配布部数は約1万部に達しました。なお、今年度はVer.2の最新版を作成、データの更新と表記の見直しを図りました。

また、当連絡会の紹介と容器包装3Rの基礎情報を掲載した啓発パンフレット「未来へつながる3R社会をめざして」も、同様に改訂を行いました。

両冊子とも、本連絡会ホームページよりダウンロード可能です。



啓発パンフレット



小冊子 リサイクルの基本

■様々なイベントでパネル等を展示・情報発信

2014年11月までに、

- ・八王子市リサイクルプラザ「あったかホール」(2月)
- ・10月7日から10日に東京ビッグサイトで開催された2014東京国際包装展 (TOKYO PACK 2014)
- ・10月23日に長岡市で開催された（公社）全国都市清掃会議秋季評議員会
- ・10月29日に相模原市で開催された第9回3R推進全国大会

といったイベント等でパネルの出展やパンフレットの配布等を行いました。

また、2014年12月11～13日に東京ビッグサイトで開催される「エコプロダクツ2014」では、当連絡会を構成する八団体が共同出展を行います。それぞれの団体がブース出展を行うほか、連絡会の共通ブースでは、連絡会としての取り組みのパネル展示等を行い、八団体を巡るクイズラリーも行います。(写真はエコプロダクツ2013のものです)



TOKYO PACK 2014への出展



第9回3R推進全国大会への出展



エコプロダクツ2013への出展

■ホームページによる情報発信

当連絡会では、ホームページにおいてこれまでの活動の記録、フォローアップ報告などの情報を掲載しています (<http://www.3r-suishin.jp/>)。

各種パンフレット類、過去の自主行動計画フォローアップ報告、連携の取り組み結果などの各種データもご利用いただけます。

The screenshot shows the homepage of the 3R Promotion Association. The header features the association's logo and the text '容器包装の3R推進のために' (Promoting the 3R for containers and packaging). Below the header, there are several sections: '3R推進団体連絡会' (3R Promotion Association), 'Voluntary Action Plan for the Promotion of 3R in Containers and Packaging', '2010 Follow-up Report', '容器包装リサイクル実績あたっての報告', and '3R推進団体連絡会 第7回会議' (7th meeting of the 3R Promotion Association). The right side of the page includes a green tree graphic and a link to the '3R推進団体連絡会ホームページ' (3R Promotion Association homepage).

3R推進団体連絡会ホームページ

III 各団体の取り組み

1. ガラスびん3R促進協議会

■さらなる軽さにチャレンジするガラスびん

利便性ニーズと環境負荷低減ニーズに対応して、びんの軽量化が進行中です。中身メーカーとガラスびんメーカーの連携により、従来びんの軽量化とともに究極の軽量びんに入った新商品も登場しています。

グランドキリン(330ml)

キリン株式会社(キリンピール株式会社)

アヲハタ55ジャム(165g・170g)

アヲハタ株式会社

■商品について

2012年6月から、セブンイレブン限定で、2013年10月からは全国のコンビニエンスストアで、ワンウェイびんに入ったプレミアムビールの「グランドキリン」を発売。国内最軽量の140g[※]となっています。

■軽量化について(工夫したところ等)

とくに軽量するにあたりカプラの部分を工夫し、全体の肉厚を薄くして、中身への遮光性の問題を克服するために黒い色調を採用しました。またこれまでにない最軽量のびんを製造するために、適切な質量を各セクションでコントロールできる設備を導入し、精度の高い成形を実現しました。検査工程でも新たな自動検査機を導入して品質精度を確保しました。



※330ml発泡性カテゴリーにおいて
(2014年11月キリンピール社調べ)

■商品について

「アヲハタ55ジャム」は、フルーツの自然な香りと美味しさを大切にした甘さの少ない低糖度ジャムです。

■軽量化について(工夫したところ等)

先に姉妹商品のアヲハタ・スーパーフルーティ35で、広口小型びん分野では世界で初めて“超軽量びん”的実用化に成功し、軽量化技術を確立しました。さらに、本商品では軽量化技術を応用しユニバーサルデザインも食品業界で先駆けて導入しています。

従来びんより2度のリニューアルを行い、現行びん(ユニバーサルデザイン)は107gの軽量びんとなっています。

アヲハタ55ジャム
小型びんUD170



	従来	軽量化後
びんの質量 キャップ・ラベル 中身を含まない 1本あたりの重量	170g	140g
びんの高さ	194 mm	165 mm

	従来	軽量化後	現行 (ユニバーサルデザイン)
びんの質量 キャップ・ラベル 中身を含まない 1本あたりの重量	120g	102g	107g
びんの高さ	84.7 mm	84.6 mm	84.0 mm

軽くなったびん入り商品を紹介している当協議会のウェブサイト(2013年度掲載商品)

<<http://www.glass-3r.jp/consumer/index1.html>>

びんの軽量化について広く理解していただくために、軽くなったびん入り商品を紹介する「ウェブサイト」、びんの重量比較ができるイベントなどで積極的にアピールしました。



エコプロダクツ展におけるびんの軽量化比較

■地域に密着して循環するびんリユースシステム

びんリユースの拡大には、消費者・自治体・事業者との連携した取り組みが必須です。

2013年度は環境省のびんリユースを促進する実証事業において、自治体や事業者等の多様な関係者が連携した地域型びんリユースシステムの構築に取り組みました。

十万馬力
新宿サイダー

福井県池田町
「いけソーダ」

奈良の大和茶
「と、わ(To WA)」

大阪撰茶
「茶々」

岡山県産ほうじ
茶「晴・Re・茶」



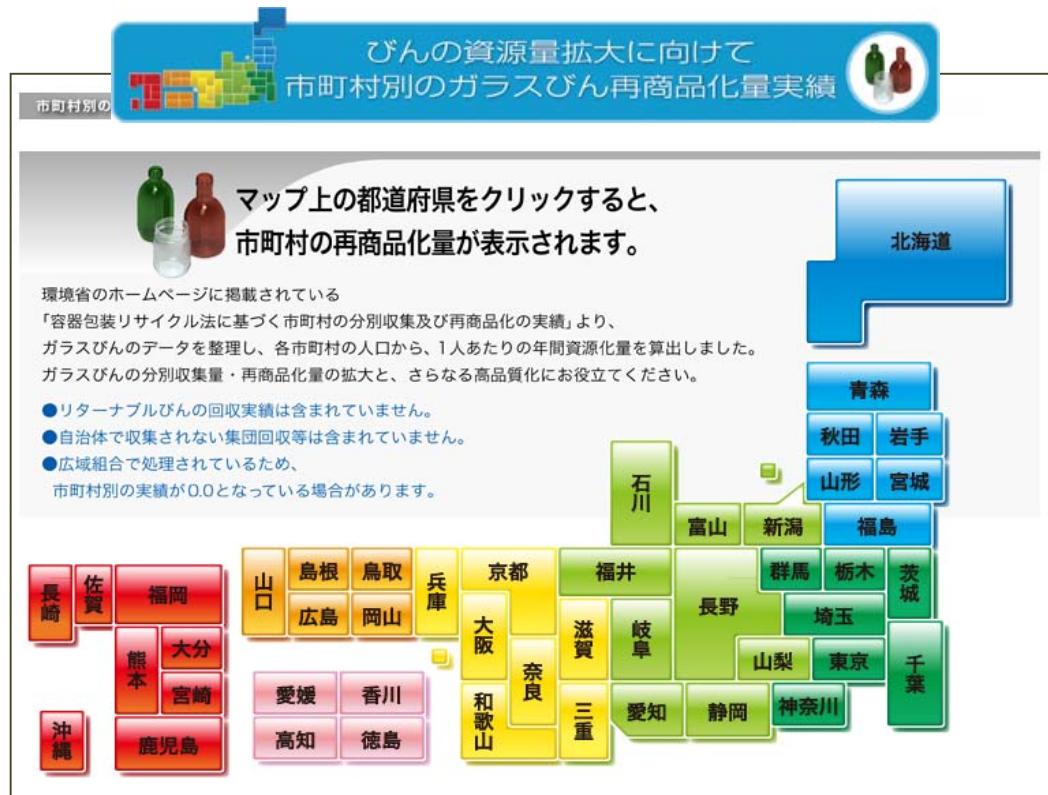
地域に根差したびんリユースの取り組みで、「R ドロップス」びん入り飲料が続々登場

また、2009年2月に立上げたウェブサイト「リターナブルびんポータルサイト」にて、全国各地で展開されるびんリユースの取り組みの紹介をおこない、リユース推進活動の「見える化」と情報発信に努めました。

ウェブサイト「リターナブルびんポータルサイト」<<http://www.returnable-navi.com/>>

■ガラスびん再資源化量の拡大に向けた取り組みの推進

ガラスびんは分別収集の際に、細かく割れて色分けできない残渣を減らすことが課題となっています。全国自治体によるガラスびんの人口一人あたり再商品化量を集計し、当協議会のウェブサイトに掲載いたしました。



自治体によるガラスびんの人口一人あたり資源化量を掲載している当協議会のウェブサイト
<http://www.glass-3r.jp/>

<2012年度市町村による分別収集によるガラスびんの人口一人あたり再商品化量>

全 国	人口 (H24年度)	無色	茶色	その他の色	合計	一人あたりの 再商品化量 (kg/人)
市町村計*	120,916,518	287,273.3	243,417.4	174,308.5	704,999.2	5.83
広域組合計*		15,165.2	17,140.9	9,401.7	41,707.8	-
(市町村+ 広域組合)計**	125,957,139	302,432	260,553	183,701	746,686	5.83

*市町村計及び広域組合計は、環境省資料「(HP掲載用)市町村ごとの集計結果【平成24年】」による

**(市町村+広域組合)計は、環境省報道発表資料「平成26年5月26日 平成24年度容器包装リサイクル法に基づく市町村の分別収集及び再商品化の実績について(お知らせ)」参考4による

■ガラスびん3Rの普及と啓発に向けての取り組みの推進

2012年度の「びんtoびん」リサイクル動画制作に引き続き、2013年度は「また会おうよ！リターナブルびん」リユース動画を制作し、当協議会のウェブサイトならびにYouTubeで公開し、情報発信に努めました。



「めぐりめぐるリユースストーリー また会おうよ！リターナブルびん」をウェブサイトで公開
<<http://www.glass-3r.jp/>>

「エコプロダクツ2013」に出展し、ガラスびんの3Rを啓発する展示のほかに、リユースをテーマに、リターナブルびんの展示やクイズを実施しました。びんリユースのムービー「めぐりめぐるリユースストーリー また会おうよ！リターナブルびん」を上映しました。



当協議会の展示風景

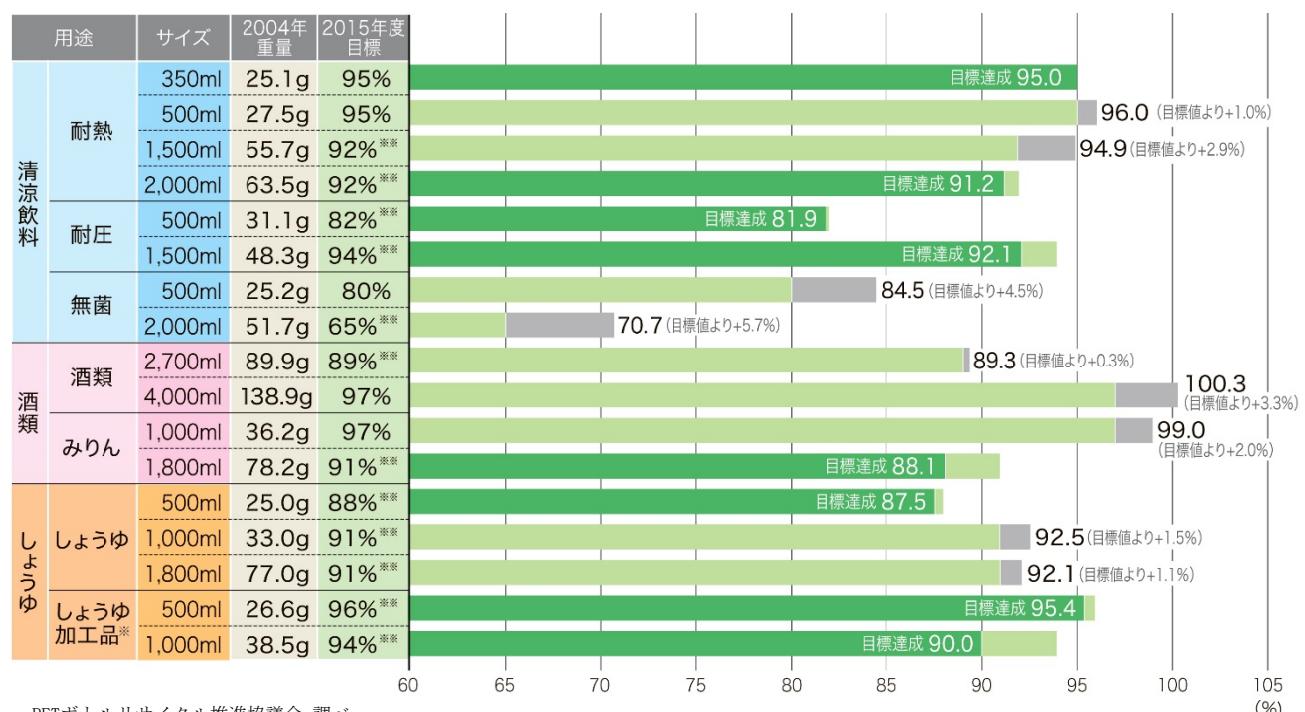


びんリユースを紹介するコーナー

2. PETボトルリサイクル推進協議会

■リデュースへの取り組み成果 2013年度軽量化 14.1%

2013年度のボトル軽量化は、主要17品種ごとに目標値を設定した中での8容器で、修正後の目標を達成する大きな成果が得られました。特に、清涼飲料の耐熱350ml・2,000ml、耐圧500ml・1,500ml、酒類のみりん1,800ml、しょうゆ500ml、しょうゆ加工品500ml・1,000mlと軽量化が顕著でした。さらに、指定PETボトル全体では、販売ボトル種・数量増減などの効果で、2013年度は、削減効果量で93千トン、軽量化率14.1%を達成しました。



PETボトルリサイクル推進協議会 調べ

* しょうゆ加工品の容器基準重量は、2008年重量とした。(第2次自主行動計画で軽量化目標値を設定)

** 2014年3月一部目標変更

サイズ・用途別PETボトル軽量化目標と実績（2013年度）

PETボトル軽量化事例



キッコーマン飲料株式会社
デルモンテ食塩無添加
トマトジュース900ml PETボトル
ボトル重量36g
(従来品43g)



**サンタリー食品
インターナショナル株式会社**
サンタリー天然水550ml PETボトル
ボトル重量11.3g
(従来品13.5g)



合同酒精株式会社
調味料1.8L PETボトル
ボトル重量58.0g
(従来品65.5g)



ヤマサ醤油株式会社
つゆ用500ml PETボトル
ボトル重量24g
(従来品28g)

2013年度実績と第二次自主行動計画目標

			基準年 2004年度	第1次目標年 2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	第2次目標年 2015年度
目標	軽量化率	%		-3%	-10% (修正前 2015年度目標)		-15% (修正後)	
目標/実績 からの 指標	軽量化率	%		-8.2	-10.5	-13.0	-14.1	
	軽量化量	千トン		52	69	85	93	
	累積軽量化量	千トン		178 (* 対04年度)	246 (* 対04年度)	331 (* 対04年度)	424 (* 対04年度)	
	1本当平均重量	g/本	33.30	29.21 -12%	28.87 -13%	27.84 -16%	26.90 -19%	
	容量当平均重量	g/500ml	22.62	20.87 -8%	19.85 -12%	19.43 -14%	19.16 -15%	
	1本当平均容量	ml/本	737	700 -5%	727 -1%	716 -3%	702 -5%	

* 軽量化率は、当該年度のボトル構成を基準年と同一と仮定して計算するため、ボトルの単位平均重量の削減率とは一致しません。

** 累積軽量化効果量は2005年度から積算。

■高度な水平リサイクル ボトルtoボトル(B to B)への取り組み

●メカニカルリサイクルB to Bが伸長

汚染除去能力を始め高度な技術を必要とする B to B は、2004年にケミカルリサイクルによって実現され、2011年には日本の高度な分別排出、分別収集を背景としメカニカルリサイクルによる方法が開始されました。

2013年度はメカニカルリサイクルが大きく伸長して使用済みPETボトルの水平リサイクル推進に寄与し、B to B製品は、日本の調査確認済み再生PET樹脂使用製品における割合が、17.5%を占めるまでに高まりました。今後もさらに発展することが期待されます。

2013年度 B to Bリサイクル 40.3千トン (対前年度比 49%増)

内メカニカルリサイクルB to B 21.6千トン (対前年度比 127%増)



PETボトルからPETボトルへの再生 (B to B) の取り組み

■リサイクルへの取り組み成果 2013年度リサイクル率85.8%を達成

●使用済みPETボトル回収量調査について

使用済みPETボトルの回収量調査は、回収ルートの多様化により、2009年、2010年と事業系調査の捕捉精度が低下しました。

そこで昨年度に続き、事業系回収量の把握率アップをめざし、廃プラスチック中間処理業者に加え、プラスチックリサイクル事業者への調査ヒアリングを強化しました。結果、PETボトル取り扱いの可能性のある事業者127社を積み上げ、新規にアンケート調査することができました。

国内再資源化と海外再資源化



■国内具体的製品カテゴリー別 再生フレーク使用量調査を実施

PETボトルが、国内にて具体的に何にどれ位の量がリサイクルされているのかという疑問に答えるべく、2008年度より繊維やシートといった用途からさらに具体的な製品カテゴリーに分けて調査を行っています。

2013年度具体的製品例と使用量(調査結果)

(単位:千トン)

製品例	使用量	構成比
P メカニカルリサイクルによる指定PETボトル (清涼飲料)	21.6	
E ケミカルリサイクルによる指定PETボトル (清涼飲料)	18.7	
T ボトル	40.3	17.5%
シート	88.7	38.5%
自動車・鉄道関連(天井材や床材など内装材、吸音材)	34.7	
衣類(ユニフォーム、スポーツウェアなど)	18.1	
インテリア・寝具(カーペット類、カーテン、布団など)	17.5	
繊維	9.8	
土木・建築資材(遮水・防草・吸音シートなど)	6.0	
家庭用品(水切り袋、ワイパーなど)	3.2	
一般資材(テント、のぼり、防球ネットなど)	1.1	
身の回り品(エプロン、帽子、ネクタイ、作業手袋など)	2.6	
その他(糸、不織布など)	93.1	40.4%
カーペット	1.9	
成形品	0.5	
その他(文房具、事務用品、園芸用品、ごみ袋、衣料関連など)	5.8	
他	8.3	3.6%
その他(添加材、塗料用、フィルムなど)	0.2	0.1%
合計	230.6	100%



自動車内装材（自動車関連）



防草シート（土木資材）



カーペット（インテリア）

■広報活動の推進～啓発ツールの提供

PETボトル再利用品は、繊維製品、文房具、化粧品ケース、自動車用カーペットマット、ラミネート包材、特殊合成紙等に広く使用されています。これらを「PETボトル再利用カタログ」にまとめ、紹介しています。

最新の3R活動情報を紹介するために、広報誌「RING」を発行しています。2013年度Vol.32では、特集記事で常葉大学社会環境学部教授の杉山涼子氏と「PETボトルリサイクルの現状と課題」についての対談を紹介しております。



「PETボトル再利用品カタログ」2013年版 Vol.13



広報誌「RING Vol.32」

●PETボトル3R改善事例集Ⅱの作成

会員団体構成各企業のたゆまぬ努力を広く社会の皆様へお知らせするため、推進協議会では環境配慮設計の実施として軽量化を中心とした成果を2010年に「3R改善事例集」としてまとめました。2014年度に2010年度版以降直近までの事例について「3R改善事例集Ⅱ」として53件を掲載し、発行しました。

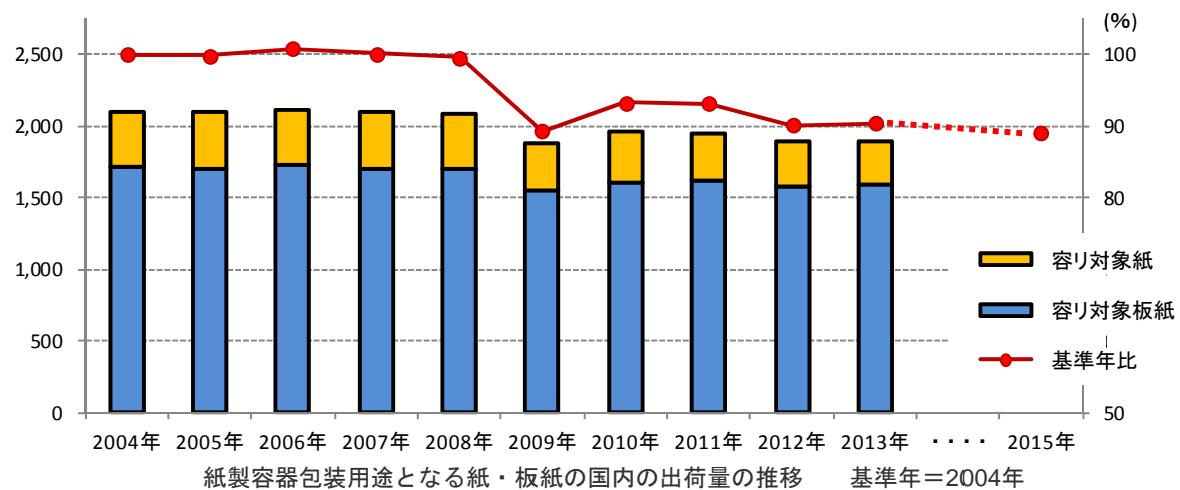


3. 紙製容器包装リサイクル推進協議会

■紙・板紙使用量の削減

紙製容器包装では、代表的な(指標となる)容器形態がないため原単位による削減の把握が難しく、日本製紙連合会の統計情報より、包装紙と紙器用板紙の出荷量をベースに、紙製容器包装用途となる紙・板紙の国内出荷量を推定し指標としています。

2013年の国内出荷量は基準年(2004年)比で 9.6%削減、前年比では0.3ポイント増加しました。



■紙製容器包装 3R改善事例集第7版を発行

実際の商品で実施されている広範囲な3R事例を、会員団体・企業を中心に事例提供をいただき、「紙製容器包装 3R改善事例集」を年度ごとに改版発行し、業界全体のレベルアップのための普及啓発を進めています。

2013年度は新しい事例と2010年度から2012年度の事例を取り組み手法別に整理し、「紙製容器包装 3R改善事例集第7版」を発行しました。



2013年度事例

外箱の廃止や、容器のコンパクト化、軽量板紙の利用、糊代フラップの寸法縮小など、軽量化・薄肉化の取り組みが継続的に実施されています。

2010年度から2012年度の事例を取り組み手法別に整理

本年度発行する第8版には
2011年度に当推進協議会でまとめた

「紙製容器包装の環境配慮設計の考え方」
を掲載します。

■リサイクルのための調査

＜ヒアリング調査＞

市町村の分別収集実績データが公表されていますが、回収は容リルートの他、既存の古紙ルートで「雑がみ」等の混合収集が行われており、回収物の組成分析調査等、様々な調査活動により実態把握を進めています。2013年度は3市でヒアリング調査を実施しました。

＜回収物の組成分析調査 [A] ＞

紙製容器包装の資源回収は市町村で様々な方法で実施されています。その資源化回収量算出のため行政収集・集団回収での(a)「雑誌・雑がみ」混合回収中での紙製容器包装の構成比(b)「雑がみ」分別回収中での紙製容器包装の構成比を、当推進協議会の独自調査により2013年度は2市で実施しました。



＜紙製容器包装のアンケート調査 [B] ＞

回収量実績は、人口10万人以上の295市を対象にアンケート調査を実施し、293市より2013年度の行政収集と集団回収の(a)「雑誌・雑がみ」混合回収量(b)「雑がみ」分別回収量の回答を得ました。

＜紙製容器包装の回収量 推定＞

[A][B]の調査より、全国の「紙製容器包装」の行政収集量は約13.5万トン、集団回収量は5.3万トンと推定し、年間合計回収量は約18.8万トンとしました。

＜回収率算定＞

「紙製容器包装の回収量」及び「家庭からの紙製容器包装の排出量モニター調査」より、行政回収率16.9%、集団回収率6.6%と算定しました。

行政と集団合計の「紙製容器包装」回収率は23.5%となり、前年比では0.5ポイント向上しました。

■リサイクル適性を考慮した容器包装設計の工夫

紙製容器包装のリサイクルの推進のために

- ①紙箱にミシン目を入れることにより廃棄時に潰しやすくする
 - ②紙とプラスチックを分離しやすくする
 - ③紙単体の包装設計を行う
- などの容器包装設計の取り組みを進めています。



切り込み点線を入れ潰しやすく

半円形のミシン目



■容器包装リサイクル法改正に向けての提言

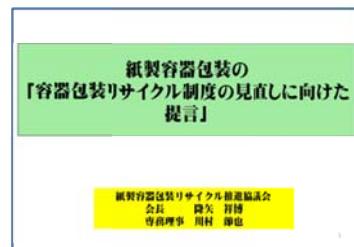
当推進協議会にて設置した容リ法改正対策委員会において、紙製容器包装のリサイクルにおける課題及び対策を整理し提言案をまとめ、2012年11月20日の理事会において承認されました。本提言において、紙製容器包装の回収量拡大を要望しており、回収量の拡大にあたり紙識別マークの見直しを提言しています。

紙製容器包装の分別収集は、容器包装リサイクル法に従った指定法人ルートと、「雑がみ」として既存の古紙ルートを利用した回収方法があり、市町村の判断により地域の実情を反映した分別収集方法で実施されています。このため、紙製容器包装中の回収対象物と非対象物（難処理古紙）の設定に市町村ごとに違いがあるため、紙識別マークは、多くの市町村で利用されていない状況にあります。

また、難処理古紙でも古紙パルプを製造可能な工場が一部あり、製紙原料化の適・不適でも画一的な区別は行われていない状況です。

当推進協議会では、容リ法改正審議会において、ヒアリングを受け、紙識別マークの見直しを含む本提言を説明し、質疑応答を行いました。本年3月の論点整理や8月末に向けて行われたパブリックコメント募集の参考に論点として取り上げられています。

以下に当推進協議会の提言骨子を示します。



紙製容器包装の「容器包装リサイクル制度の見直しに向けた提言」

1 紙製容器包装の収集・リサイクルの促進

提言 1 紙製容器包装を収集する市町村の拡大を要望する

容リルート「紙製容器包装」分類での収集及び古紙ルート「雑がみ」分類での収集を実施する市町村の拡大を要望する。

提言 2 紙単体紙製容器包装と複合紙製容器包装の区別表示の設定を提言する

古紙ルート「雑がみ」分類で収集を実施する市町村の拡大及び紙製容器包装の回収量拡大のために、紙単体紙製容器包装と複合紙製容器包装の区別表示の設定を提言する。

提言 3 複合品の収集・リサイクルの促進を提言する

複合品も、家庭から排出される容リ法対象の紙製容器包装の約15%（約12万トン：当推進協議会調査）を占め、固形燃料等の有効なリサイクル資源であるため収集・リサイクル促進を提言する。

提言 4 紙製容器包装の収集拡大のための啓発を要望する

紙製容器包装収集を実施する市町村を拡大するために、紙製容器包装が有効な資源であることを市町村に啓発することを要望する。

提言 5 今後の制度見直し

紙製容器包装全体のリサイクルシステムのあるべき姿の研究を進める。

2 容器包装3R制度全体のあり方について

提言 6 三者の役割分担を維持し取り組みの深化を図る

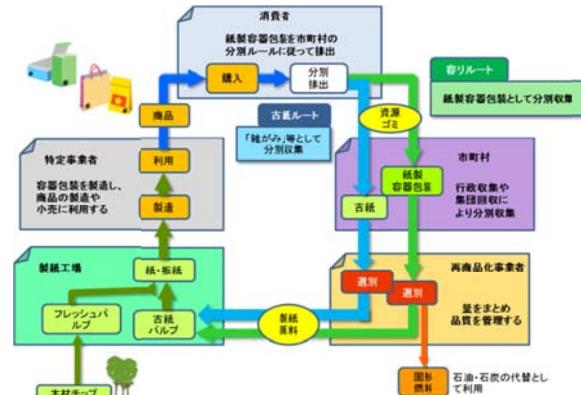
提言 7 主体間連携の強化を図る

■紙製容器包装のリサイクルフロー

紙製容器包装は、2つのリサイクルルートで資源化されています。

1 「紙製容器包装」として分別収集するルート（容リルート）

市町村で紙製容器包装識別マークのついたものを対象に集め、収集されたものの再商品化（リサイクル）は特定事業者（容器包装の製造利用事業者）が、指定法人（（公財）日本容器包装リサイクル協会）に委託して行われます。主に製紙原料に利用され、製紙原料に向かないものは固形燃料等として利用されます。



2 「古紙」として分別収集するルート（古紙ルート）

市町村で従来からの古紙（新聞・雑誌・段ボール等）の回収ルートを利用して主に製紙原料に向く紙製容器包装を集め、製紙原料に向かないプラスチックとの複合品や、匂いのついた箱等が回収対象から除かれます。

紙製容器包装は、「雑がみ」「その他の紙」などの分類で、紙小物類との混合で回収されます。

■アルミ付き飲料用紙パックについて自主回収やNPO等の活動を応援

アルミ付き紙パックの、自主回収の仕組み作りとして、市民団体との協働による「酒パックリサイクル促進協議会」が設立され、その活動を支援しています。

小売酒販店を主体とした回収拠点「エコ酒屋」は、現在全国で479店舗の取り組みがあります。又、酒造メーカーで発生する損紙のリサイクルシステムの構築も進められています。

■「エコプロダクト2013」に出展

当推進協議会は2013年度も（公財）日本容器包装リサイクル協会とプラスチック容器包装リサイクル推進協議会と共同出展しました。「容器包装のリサイクル工場」をテーマに紙製容器包装の再商品化製品の工程を分かり易く説明するイベントや再商品化製品の展示を実施しました。



4. プラスチック容器包装リサイクル推進協議会

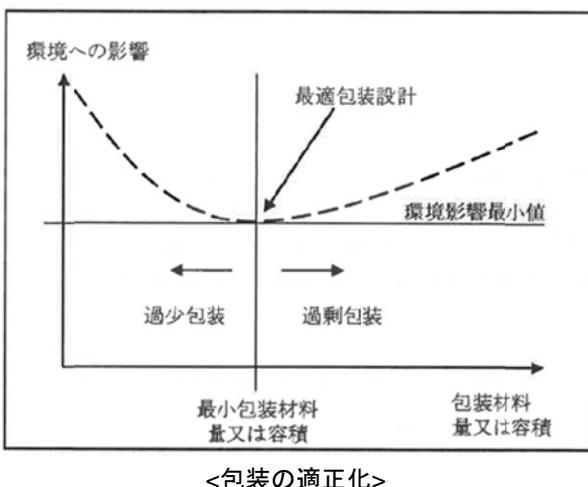
■環境配慮に関する自主設計指針を検討

2013年9月から始まった容器包装リサイクル法見直しの合同審議会での議論を踏まえて、当協議会では事業者の自主的取り組みによるプラスチック容器包装の環境配慮設計を推進するための取り組み指針の検討を進めています。

プラスチック容器包装は、使用される樹脂の材質が多様で、形態も多種あり、包装・充填される中身製品も、各種食品、洗剤、化粧品、医薬品など、様々な分野におよび、幅広く日常生活を支えています。

こうした実情を踏まえて、夫々の中身製品の特質、特性を生かし、かつ中身製品と容器包装を含むライフサイクル全体での環境負荷を低減し、3Rなどを自主的に進めていくとともに、市民、自治体との相互理解と連携を図り、循環型社会に貢献していく所存です。

なお容器包装の環境配慮設計に関する指針として、ISO18600シリーズに合致した新たなJIS規格の検討が進められています。



出典：産構審・中環審：第14回合同会合資料

■環境配慮設計と3Rの事例集を継続発行

プラスチック容器包装の薄肉化、コンパクト化や複合材質化などプラスチックの使用量を削減化を進めてきました。

また、中身製品から容器包装までの環境に配慮した商品設計を心がけた商品づくりに取り組んでいます。

3R事例集では、3Rに関する特定事業者の取り組み情報やその成果を発信しております。

2013年度も、日頃より取り組んできた成果を、継続して第6版目の3R事例集として作成し、プラ推進協のホームページに掲載し広く一般に広報しました。

【2013年度版3R事例集をホームページに掲載】

URL: <http://www.pprc.gr.jp/3r/pamphlet.html>



【3R事例集 2013年版】

■市民・自治体・事業者の意見交換会を全国各地で実施

3R推進のための課題である主体間連携のために、当協議会とPETボトルリサイクル推進協議会の共催による市民・自治体・事業者との意見交換会を、2012年度から継続して開催し、各主体と

の相互理解の深化を通して、情報の共有化や連携を進めてまいりました。

2012年度は、神戸市、札幌市、仙台市、東京都の4地区で開催、2013年度は、熊本市、川崎市で開催しました。

2014年度は、7月に松阪市、11月には盛岡市で開催し、通算で8回となりました。

さらに2015年初には北九州市で開催する予定です。

＜意見交換会の開催状況＞

開催日	開催場所	参加人数	分科会テーマ
2012年7月13日	神戸市	74名	■リサイクル・3R ■容器包装の環境配慮設計
2012年9月4日	札幌市	23名	■リサイクル・3R ■容器包装の環境配慮設計
2012年10月31日	仙台市	43名	■リサイクル・3R ■容器包装の環境配慮設計
2013年2月22日	東京都	89名	■主体間連携はどのようにすればよいか ■分別・収集と識別表示の問題 ■プラスチック容器包装の再商品化はどうあるべきか ■容器包装についての要望と環境配慮設計(DfE) ■拡大生産者責任(EPR)と3R
2013年9月20日	熊本市	69名	■リサイクル・3R ■容器包装の環境配慮設計
2014年2月21日	川崎市	33名	■分別・収集と識別表示 ■プラスチック容器包装の再商品化と連携 ■容器包装の機能と環境配慮設計
2014年7月11日	松阪市	62名	■リサイクル・3R ■容器包装の環境配慮設計
2014年11月28日	盛岡市	35名	■リサイクル・3R ■容器包装の環境配慮設計



【神戸・会場風景】



【札幌・会場風景】



【仙台・会場風景】



【東京・会場風景】



【熊本・会場風景】

■ プラ推進協・3R推進セミナー開催

2014年度は、会員及び関係主体への情報提供と、容器以外のプラスチックについてなどを主体に3R推進セミナーを開催しました。2014年度は7月、12月、の2回開催したところです。

＜セミナー開催状況＞

	開催日	基調講演者	テーマ
2013年度 第1回セミナー	2013年 6月17日	神戸大学大学院 教授 石川雅紀 氏	容器包装リサイクル法見直しに 向けて
2013年度 第2回セミナー	2013年 12月2日	公益財団法人廃棄物・3R研 究財団 藤波 博 氏	循環3Rの動向について
2013年度 第3回セミナー	2014年 2月3日	トムラソーティング（株） 代表取締役佐々木 恵 氏 エレマジャパン 小田川 知展氏 いその 代表取締役 磯野 正幸 氏	各種選別技術とその実用化と普 及状況 洗浄・造粒・ペレット化技術とそ の普及状況 我が国の再生プラスチック業界 の動向と容器包装への期待
2014年度 第1回セミナー	2014年 7 月8日	公益財団法人日本容器包装 リサイクル協会 部長 浅川 薫 氏	プラスチック容器包装に係る実 証結果報告
2014年度 第2回セミナー	2014年 12月5日	日本プラスチック工業連盟 事務局長 岸村小太郎 氏 一般社団法人 全国清涼飲 料工業会 顧問 大平 悅氏	海洋ごみの現状 欧州におけるEPRの現状



【2013年度第2回】



【2014年度第1回】

■ ボトルキャップの店頭回収・リサイクル実証事業

2014年5月から6ヶ月間、特定事業者の自主的な取り組みとして「ボトルキャップの店頭回収・リサイクル実証事業」を行いました。

3R推進のための関連事業者の自主的な取り組みによる多様な回収のひとつとして実証を行いました。



学識者によるライフサイクル評価(LCA)を用いて、実証事業による環境負荷(温室効果ガス)及び資源消費(化石資源)の評価を行い報告書にまとめ公表します。プラキャップの回収・リサイクルのマニュアルとして普及を図ります。

【ポスター】



【回収ボックス】

- ＜事業主体＞・日本チェーンストア協会・日本スーパーマーケット協会・
 ・一般社団法人 全国清涼飲料工業会・P E Tボトルリサイクル推進協議会
 ・一般社団法人 日本キャップ協会・全日本プラスチックリサイクル工業会
 ・プラスチック容器包装リサイクル推進協議会
 ＜実施店舗＞・株式会社ヤオコー全店舗

■容り法見直しで、パブリックコメントを12項目提出

2013年9月にスタートした容器包装リサイクル法見直し審議に伴い、経済産業省・環境省合同審議会でのパブリックコメント募集を受けて、プラスチック容器包装リサイクル推進協議会は、2014年8月末に12項目のパブリックコメントを提出致しました。

パブリックコメントは、容器包装リサイクル法見直しへの意見として一般に公表した、2012年10月に経済産業省、環境省に提出した「容器包装リサイクル制度に関する提言」や2013年12月の合同審議会のヒヤリングでの当協議会のコメントなど基に、特定事業者の意見としてまとめたものです。

【容器包装リサイクル法の見直しへの意見】

URL:<http://www.pprc.gr.jp/activity/report/images/opinion20131205.pdf>

■エコプロダクツ2013に出展



【展示風景】



【展示風景】

2013年度は、「リサイクル工場」と題して、リサイクルの流れとどのような製品に生まれ変わるかを学べる場を提供し、また容器包装の機能と環境配慮の観点から、子供たちに3Rの重要性を学習してもらいました。

5. スチール缶リサイクル協会

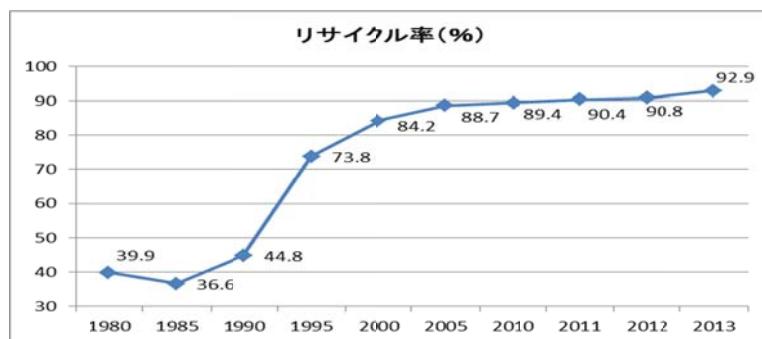
■リサイクルの推進

市町村・リサイクル事業者・鉄鋼メーカーとの連携協力により、分別収集・再資源化システムが確立されたことで、90%以上という高いリサイクル率を維持しています。

このようなことから、今年度には、経済産業省・産業構造審議会のガイドライン目標を「85%以上維持」から「90%以上維持」に上方修正しました。

1995年度より、ボランタリープランとしてスチール缶リサイクル協会は「一定条件下において有償もしくは無償による引き取り保証」を行っています。

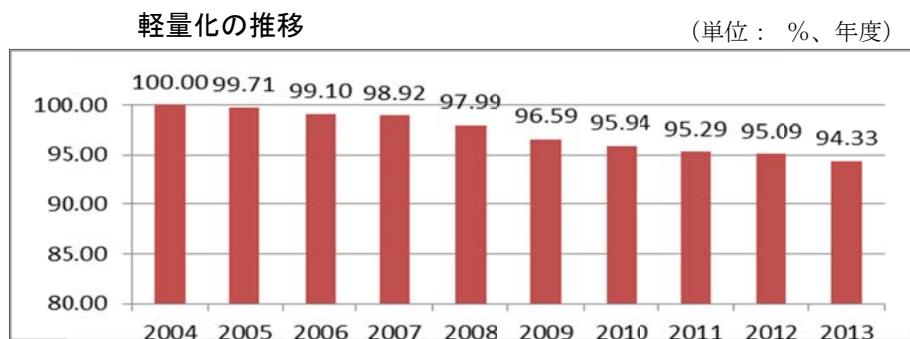
また、環境配慮設計の観点に立ち、従来のブリキに代わるリサイクルしやすい材料を採用しています。



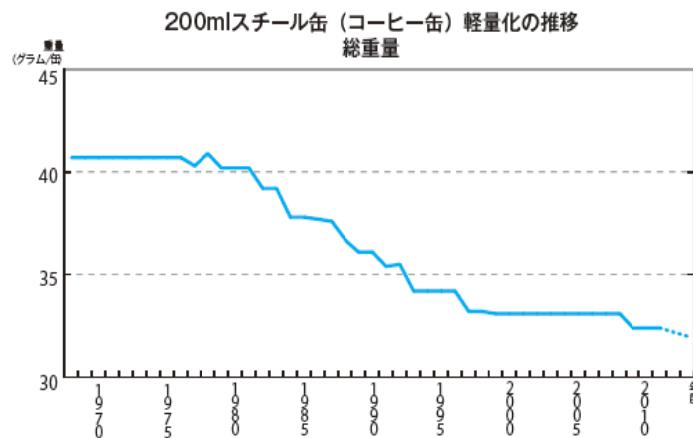
■リデュースの推進

2005年度の第1次自主行動計画公表後、日本製缶協会が軽量化推進委員会を設置して業界全体での取り組みを推進した結果、軽量化の目標を前倒しで達成しています。

- 基準年度： 2004年度
基準年度の1缶当たり重量： 35.67 g
- 第1次自主行動計画目標 「1缶当たり2%の軽量化を目指す」
目標年度2010年度 ⇒ 2008年度に前倒し達成
- 第2次自主行動計画目標 「1缶当たり4%の軽量化を目指す」
目標年度2015年度 ⇒ 2010年度に前倒し達成
- 第2次自主行動計画目標改訂：「4%の軽量化」 ⇒ 「5%の軽量化」に上方修正 (2013年度)



スチール缶の代表缶種である200mlスチール缶においては、飲料用スチール缶が市場に登場した時から、長期に亘り軽量化の研究開発を図っています。



ビードを入れることで強度をアップさせて、薄肉化・軽量化を図りました。

主な研究開発の推移：

- 1973年： 2ピーススチール缶登場（缶胴+缶底が一体となった缶）
- 1978年： ティンフリー・スチール化（リサイクルしやすい材料の採用開始）
- 1979年： 溶接缶登場（缶胴の接合部が溶接された3ピース缶）
- 1984年： 蓋縮径缶化
- 1992年： 低バキューム充填法開発
- 1997年： ラミネート缶化
- 2006年以降： ビード缶採用

■自治体・事業者等との連携による調査・研究

①スチール缶等の分別収集・処理・再資源化状況調査

毎年度、自治体（市及び東京23区）との連携協力で分別収集・処理等の全国調査を実施、また全国のリサイクル事業者・鉄鋼メーカーとの連携でスチール缶の受入・再資源化状況の調査を実施、結果を自治体・リサイクル事業者・鉄鋼メーカー等（約2千か所）と情報共有し、資源循環の仕組みの維持に活用いただいているます。

②多様な回収ルートの調査・研究

前回の容器包装リサイクル法の見直し審議の中で多様な回収の仕組みを推進すべきという方向性が打ち出されたことより、2005年から開始した集団回収の調査・研究に引き続き、2011年から店頭回収の調査・研究を行っています。実態調査と研究の結果をまとめた報告書を発行、さらにこれを活用しての報告会を開催しました。

③鉄スクラップの市況調査

鉄スクラップの市況調査を行い、その結果を市町村へ定期的に情報として提供、リサイクルの推進に活用していただきました。



集団回収マニュアル（2010年度発行）



民間回収ルート実態調査報告書（2014年度発行）



平成26年3月
資源回収の多様な回収実態



実態調査報告会（2014年8月）

■自治体・市民団体・事業者との連携に資する普及啓発広報

①ポスターによるリサイクル推進の普及啓発

ポスターを製作して全国の自治体・リサイクルセンター・リサイクル事業者・鉄鋼メーカー等へ配布し、活用していただきました。

②ホームページによる最新情報の提供

ホームページを随時更新し、協会活動の最新情報をタイムリーに提供しました。

③広報誌等による先進的環境情報の提供

先進的な環境情報を掲載した冊子“STEEL CAN AGE”を発行、各種メディア・自治体・リサイクルセンター・環境団体・事業者等へ配布し活用していただきました（約2,500か所）。啓発用小冊子等は、要望に応えて提供し活用していただきました。



普及啓発ポスター



広報誌（8月号）



広報誌（2月号）



④ラジオ媒体による普及啓発

- AMラジオ局でスチール缶のリサイクルCMを放送し、消費者にリサイクルの推進を呼びかけました。
- FMラジオ局からの要請に応えて、スチール缶のリサイクルに関する解説を放送しました。

⑤製鉄所見学会等による普及啓発

児童・市民団体向けに「製鉄所等見学会」を実施し、事業者の環境への取り組みを理解いただきました。



JFEスチール東日本製鉄所
(千葉地区)



新日鉄住金君津製鉄所

⑥受入れ・出前授業による普及啓発

スチール缶のリサイクルについて、当協会訪問の中学生を対象に受入れ授業を実施、また自治体等に協力して出前授業を行いました。



受入れ授業



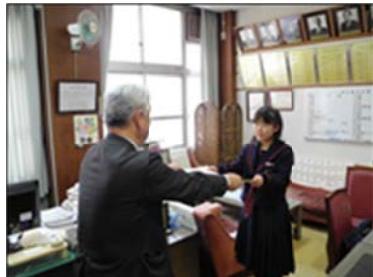
出前授業

⑦スチール缶リサイクルポスターコンクールによる普及啓発

スチール缶のリサイクルを通して、小中高生を対象に、環境意識の向上に資する“スチール缶リサイクルポスターコンクール”を実施しました。



グランプリ作品



表彰式



掲載記事

⑧環境イベント等への出展による普及啓発

地方自治体や事業者等からの要請に基づき、連携協力の一環として地域の環境イベント等に出展し、来場者に3Rの推進を呼び掛けました。



環境フェスティバルふくおか



さが環境フェスティバル



エコプロダクツ川越



まつり起業祭八幡



J F E 西日本フェスタ in ふくやま



エコプロダクツ2013

⑨清掃用具、啓発用小冊子、ノベルティ等の提供による普及啓発

自治体・地域美化団体等に協力し要請に応じて清掃活動用のごみ袋を18か所に計42,500枚を提供しました。また、啓発用冊子、ノベルティ等を作成、全国の自治体等へ提供するとともに、環境展等で活用していただきました。

■リサイクル推進のための支援事業

①集団回収の推進支援

多様な回収のシステムの一つであり、地域コミュニティ活性化・社会的コスト削減・国民の環境意識の向上・排出物の品質向上など種々のメリットがある集団回収を推進するため、スチール缶の集団回収を実施している地域団体への表彰支援を行いました。

②環境教育の推進支援

実践的な集団回収を通じて優れた環境学習を実施している小中学校への表彰支援を行いました。



集団回収の様子



集団回収推進支援 表彰



環境教育推進支援 表彰

■散乱防止・美化の推進

①まち美化推進に係る実態調査を実施

ニーズに応え、まち美化に先進的に取り組む自治体の実態調査を実施し、情報提供を行いました。

②散乱防止・美化キャンペーンの実施

1973年より地域と連携して、地域一斉清掃活動の活性化並びにごみの散乱防止と地域の美化促進に継続して協力しています。

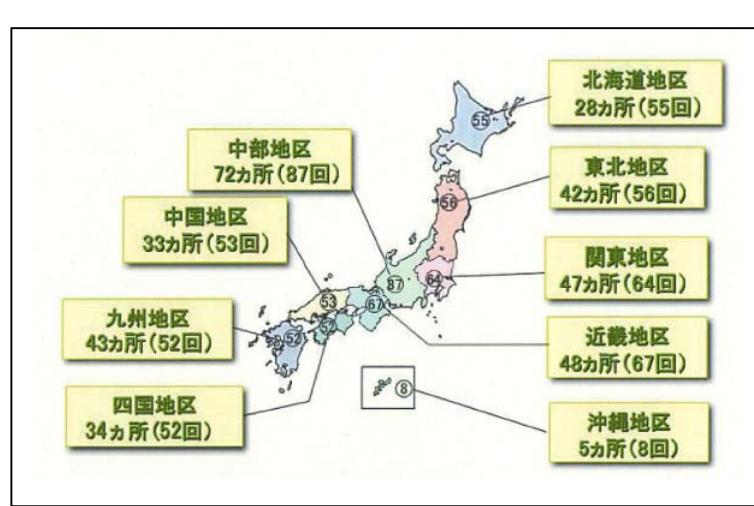
2013年度：3回実施 累計回数：491回 累計箇所：350か所



帯広市でのキャンペーン



宮崎市でのキャンペーン



6. アルミ缶リサイクル協会

■リデュースの取り組み

ここ数年のアルミ缶のリデュース率は目標値の3%をクリアできたことから、目標値を見直し4.5%に引き上げます。アルミ缶のリデュースは、個々の缶のリデュース（軽量化）と缶サイズ構成のダウンサイジング（小型化）の二面から見ることができます。

軽量化では、最も多く使用されている350ml 1缶が長年にわたり軽量化を牽引してきましたが、容器としての強度やハンドリングの適性を考慮するとそろそろ仕様の限界を迎えることがあります。小型化では、コーヒーのアルミ缶化により190ml缶サイズなどが増えることが予想されます。

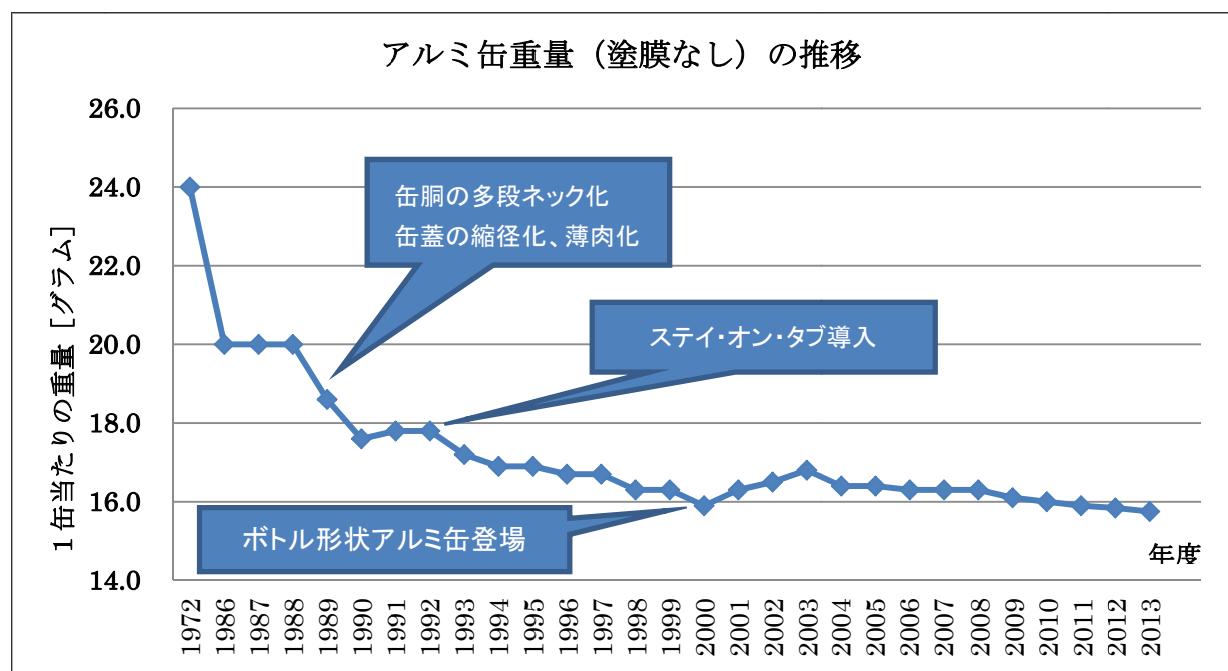
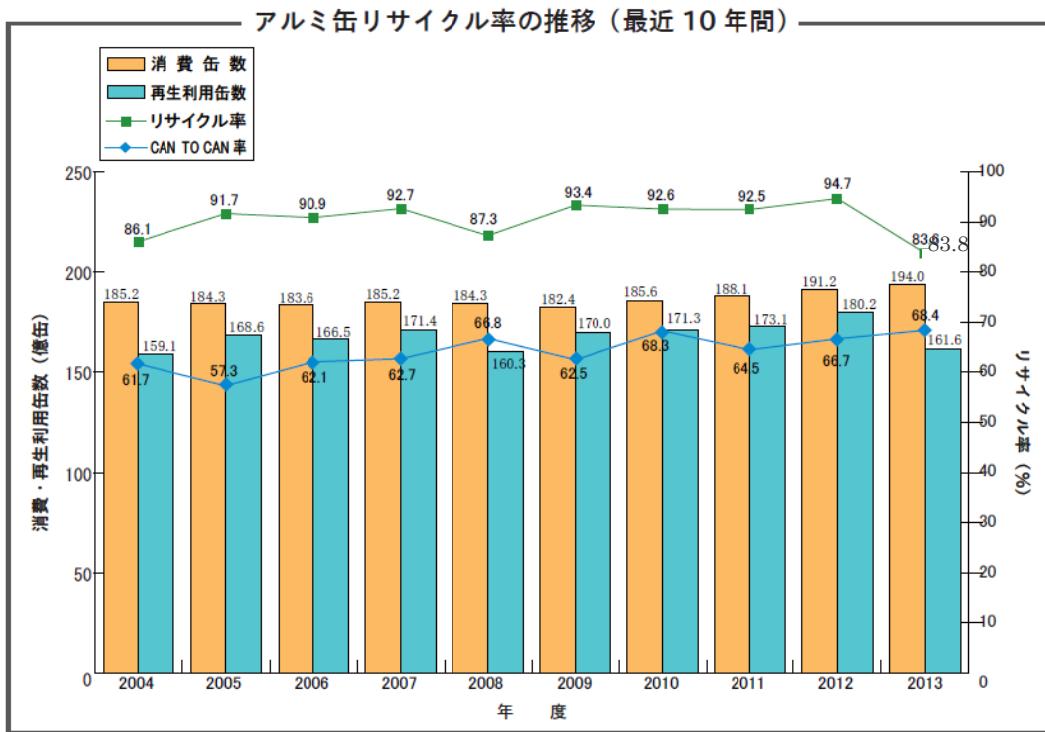


図 - 1 アルミ缶の平均重量（塗膜なし）の変遷

■リサイクルの取り組み

アルミ缶のリサイクル率は2005年度以降ほぼコンスタントに90%以上を維持していましたが、2013年度は83.8%とここ10年で最も低い数値になりました。これは回収された使用済みアルミ缶の相当量が輸出されたためです。これまで輸出統計では使用済みアルミ缶はアルミくずに含まれていましたが、平成27年1月からは品目コードが付けられることになり（財務省告示333号）、輸出動向が明確になります。国内の資源循環へのご協力をお願いする次第です。



注) 1. リサイクル率は、再生利用重量と消費重量の比較です。
2. CAN TO CAN率は、再生利用されたアルミ缶のうち、再びアルミ缶として生産された割合です。

図-2 アルミ缶リサイクル率の推移

■調査研究

アルミ缶の再生利用フローは、環境省による市町村別の分別収集・再商品化の実績データや、日本チェーンストア協会のホームページなどに公開されているデータを利用して毎年更新しています。2012年（平成24年度）は回収缶の輸出が増加したため、アルミ缶の消費量を上回る量の使用済みアルミ缶の荷動きとなりました。その結果、国内の使用済みアルミ缶のストックは相当量減少したと思われます。

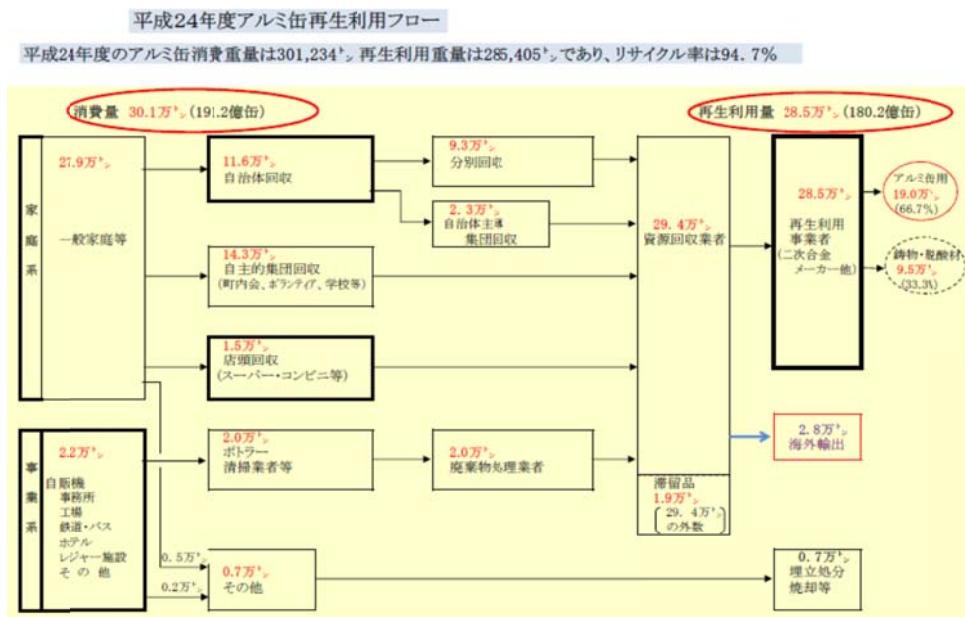


図-3 平成24年度アルミ缶再生利用フロー

■回収活動の支援

回収活動の支援・啓発として、回収拠点からの推薦で集団回収を行う回収者・学校（団体）の表彰を毎年行っています。これに加え、優秀回収拠点の表彰も毎年行っています。

また、3R推進協議会による3R推進功労者等表彰に当協会から候補者の推薦を行っています。

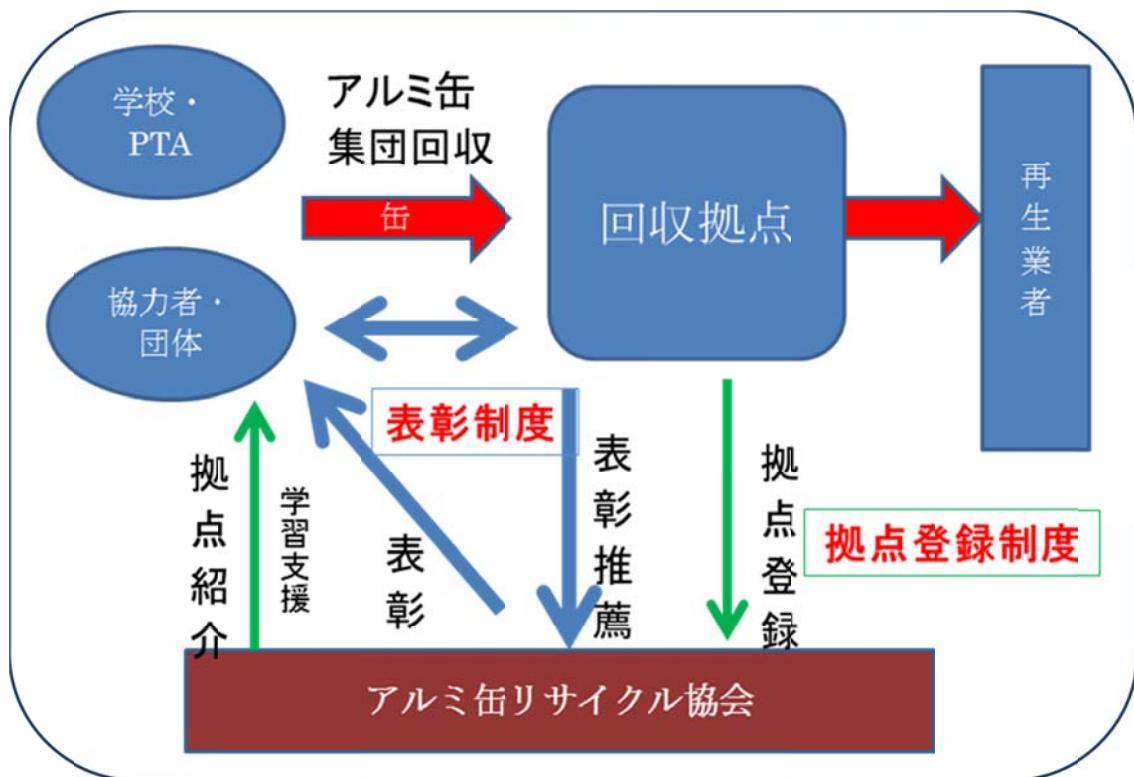


図-4 集団回収支援 模式図

①アルミ缶回収優秀校（小・中学校）表彰

全国の小中学校において回収拠点から推薦を受けた学校について回収運動の継続年数、回収量、活動内容などを評価して優秀校を選出、2014年度は67校を表彰しました。

②アルミ缶回収協力者（一般）表彰

全国の町内会・PTA・養護施設等の回収ボランティアで、優秀な回収実績をあげている個人や団体を回収拠点から推薦いただき毎年表彰しており、2013年度は40団体を表彰しました。

③優秀回収拠点表彰

当協会認定の回収拠点の中からアルミ缶のリサイクルに特にご尽力いただいた拠点を表彰する制度で、2013年度は2拠点を表彰しています。

④3R推進功労者等表彰

3R推進協議会が環境月間に行うもので、当協会も候補者の推薦団体の一つです。2014年度は当協会推薦の団体が内閣総理大臣賞（宝酒造（株）様）、3R推進協議会会長賞（3件：（株）カスミ様、紀の川東洋台浜木綿クラブ資源集団回収グループ様、夢の島公園・夢の島熱帯植物館様）を受賞しました。



アルミ缶リサイクル協会における表彰（一般、拠点）



3R推進労働者等表彰式（2014.10.28）

■広報活動

①リサイクル施設見学研修会の開催

10月の「3R推進月間」の行事として毎年開催しています。関係官庁、自治体、市民団体、報道関係者の方々向けにご案内しています。2014年は10月10日に横須賀リサイクルプラザ、鶴見資源化センター、キリンビール横浜工場の見学を実施、52名の参加者がありました。

②アルミ缶リサイクルに関する展示、出展

2014年10月3日～5日のキャンアートフェスティバル（小樽）での展示、12月のエコプロダクト展（東京ビッグサイト）では寸劇を交えた出展を通して啓発活動を実施しています。

③ホームページの開設【<http://www.almi-can.or.jp/>】

ホームページではアルミ缶のリサイクルに関する情報、協会の活動状況をみることができます。リサイクルニュースの掲載や環境学習に必要な資料の貸出しのご案内をしています。



リサイクル施設見学研修会（2014.10.10）



キャンアートフェスティバル（小樽2014）

エコプロダクト展（東京ビッグサイト2013）

www.almi-can.or.jp/index.html

CAN to CAN

事業案内
アルミ缶を知ろう
リサイクル活動
リサイクルデータ
アルミ缶 Q & A
資料の貸出
3R推進活動の取組み

アルミ缶からアルミ缶へ
リサイクル率100%をめざしています。

Japan Aluminum Can Recycling Association

更新情報
14.10.27 平成26年度アルミ缶回収協力者募集を開始
14.10.23 各種会員登録用フォームの変更
14.7.28 リサイクルニュースNo.120を掲載

アルミ缶回収協力者募集!!

アルミ缶リサイクル協会ホームページ

7. 飲料用紙容器リサイクル協議会

飲料用紙容器リサイクル協議会は、全国牛乳容器環境協議会(容環協)、印刷工業会 液体カートン部会、一般社団法人 全国清涼飲料工業会、一般社団法人 全国発酵乳乳酸菌飲料協会、一般社団法人 日本果汁協会、酒類紙製容器包装リサイクル連絡会の 6団体で構成し、飲料用紙パック(アルミ付を除く)の 3 R を推進しています。なお主体間連携等の活動面は主に容環協が担っています。

■牛乳パック リデュースの取り組み

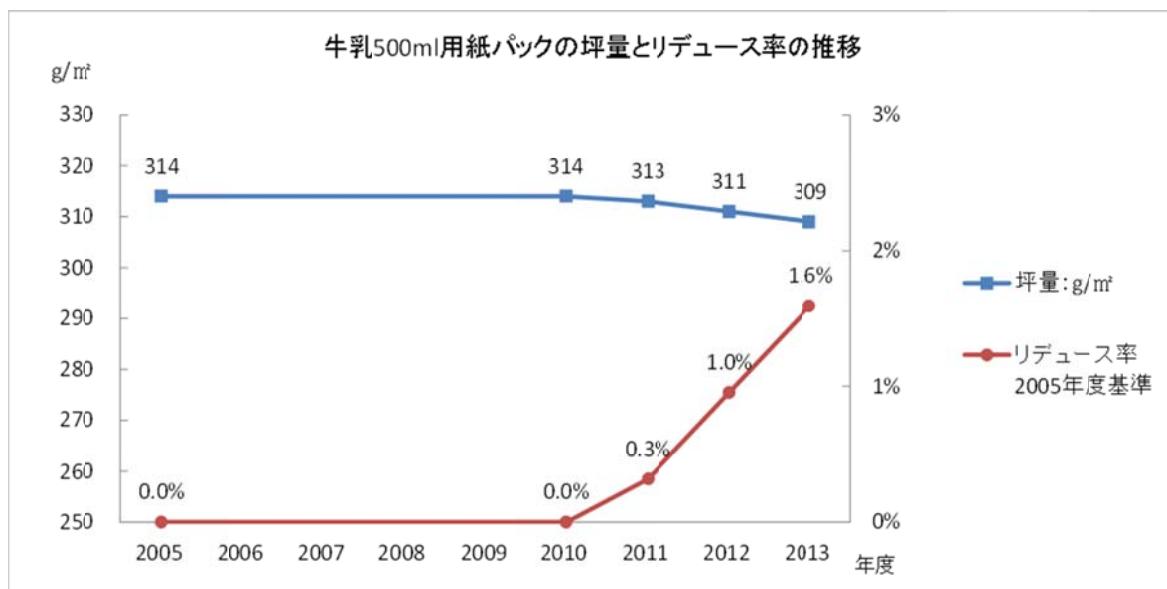
紙パックのリデュースは、1987年から 2002年の間に約5%の軽量化を実現しています。1000ml-容器については品質への影響が危惧され、現段階での薄肉化は難しく、「500mlの牛乳パック」に限定した軽量化に取り組んだ結果、中身飲料の品質に影響を与えず、運搬時に漏れのない強度のある紙パックを 安定して製造できる見通しがつき、2011年 9月に「従来の500ml-牛乳パックと比較して、2~3%程度ならば 軽量原紙を使用しても品質を保持できる目途がついた」ことを公表しました。初年度の2011年度は 9月からの取り組みということもあって、2005年度に比べ 0.3%、2012年度 1.0%、2013年度 1.6%の軽量化(原紙仕様レベル)となりました。

[紙パックのリデュースについて]

- 1987年～2002年 約5% 軽量化を実現
対象； 1000ml 紙パック、500ml 紙パック

[500ml 牛乳パックのリデュースについて]

- 2011年 9月 500ml 牛乳パックのリデュース取組み発表
- 2011年度 実績 0.3% 軽量化 (原紙仕様レベル)
- 2012年度 実績 1.0% 軽量化 (〃)
- 2013年度 実績 1.6% 軽量化 (〃)



■牛乳紙パックの再利用・再活用啓発の取り組み

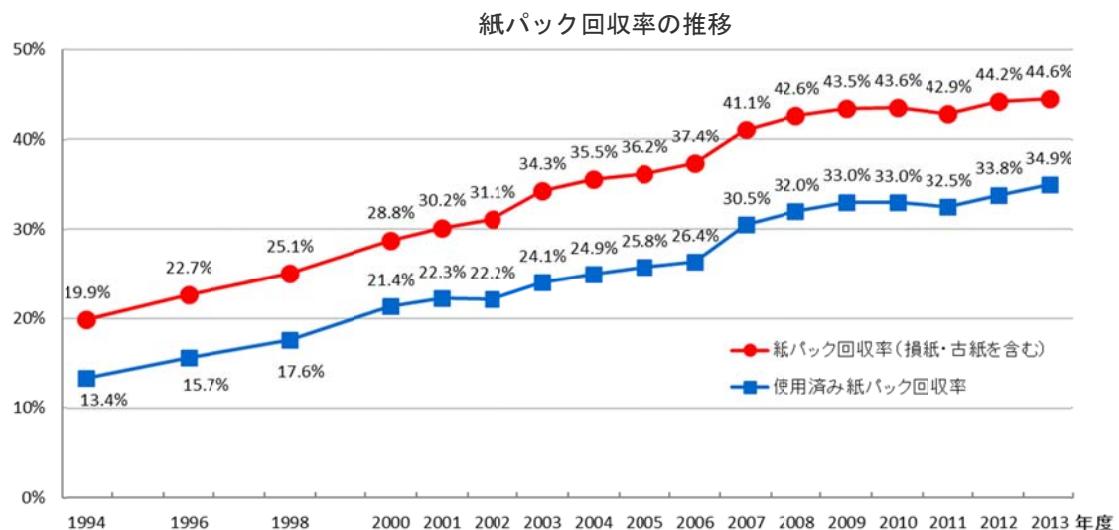
牛乳パックは軽くて丈夫な上、水にも強いなどの特性を利用して、家庭や学校などで広く再活用されています。特に台所回りでの「まな板替わり」や「小物入れ」として再利用されるほか、工作などにも再活用されています。容環協は、ものを大切にすることや環境学習などへの支援の一環として、今年で 14回目を迎える「牛乳パックで『遊ぶ学ぶ』コンクール」を支援しています。



■紙パックリサイクルの取り組み プラン 2015

2015年度を到達年度とした行動計画の基本として、容環協は環境負荷が少ない社会、一人ひとりが環境を考え行動する社会の実現に向けて、

- ① 2015年度までに紙パックの回収率を50%以上に高め、紙パックのリサイクルを推進することで環境負荷をさらに削減する。
- ② 紙パックの回収率向上活動とあわせて、環境負荷が少ない紙パックの環境特性を社会に正しく伝える。
- ③ 紙パックの回収率向上活動を通して、資源や環境を考え、行動する人々を増やす。ことを定めています。



■地域の回収力を高める取り組み（市民・自治体・事業者の連携）

①紙パックリサイクル促進 地域会議を開催

飲料用紙容器リサイクル協議会の活動推進団体である容環協は、消費者、市民団体、自治体、製造・販売・回収・再生事業者など、多くの関係者の連携により地域の回収力を高めるため、従来から地域会議を開催しています。2013年度は、埼玉、大阪で開催しました。

- ・紙パックリサイクル促進 地域会議 in 千葉/東葛

開催日：2014年 8月29日

会 場：松戸商工会議所

- ・紙パックリサイクル促進 地域会議 in 神奈川

開催日：2014年11月11日

会 場：コンベンションルームAP 横浜駅西口



②紙パックリサイクル講習会

家庭系の紙パックの回収率向上に向けて、地域の市民に対する効果的な啓発を目的に、行政との連携のもとにリサイクル講習会を開催しました。紙パックに使用されている高品質なパルプを実感し、ごみにしたら「もったいない」を体感してもらい、リサイクル促進に繋げています。2013年度は 中野区をはじめ 5カ所、2014年度は 相模原市、西東京市、富士見市の 3カ所で開催しました。



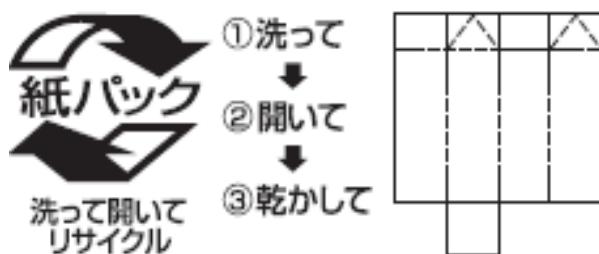
③環境キャンペーンの拡充と識別マークに標語と展開図を付記

毎年 6月と10月には、紙パック容器の側面「広告欄」に牛乳パックリサイクルの啓発、促進する環境メッセージを掲載しています。

[環境キャンペーンデザイン]



[識別マーク（標語・展開図付記）]



④紙パック回収ボックスの提供

2014年3月末-現在、累計で21,615個の回収ボックスを提供し、2014年度は4月から9月まで623個を提供しています。

尚、2013年度からは、リニューアルした新しい回収ボックスの提供を開始しています。

[リニューアルポイント]

- ・投入口を上方へ移動（1回分の回収量増）
- ・上下セパレート方式に変更（取出しが容易に）
- ・表現を「牛乳パック」から「紙パック」へ変更
- ・紙パック識別マークをボックス頂部に表示



■教育や学習の場における活動の推進（牛乳パックリサイクル出前授業）

容環協は、市民団体の「全国牛乳パックの再利用を考える連絡会」と連携して、環境教育の推進に資するため、全国で牛乳パックリサイクル出前授業を行っています。2013年度は、栃木県茂木小学校など8校、今年度は既に5校で開催し、今後1校での開催を予定しています。

また、環境学習用として作成した「もったいないものがたり」は継続配布しています。



■他の活動

・回収拠点のフォローアップを目的とした店頭での紙パックリサイクル啓発

店頭での紙パック回収に協力的な量販店や自治体とタイアップして、大勢の市民が訪れる店先でのリサイクル啓発・呼びかけを行いました。

2013年度には相模原市ニトリモールほか2ヶ所、2014年度には仙台市ララガーデン長町において、紙すき体験やクイズパネルを通した市民との対話により啓発活動を行っています。

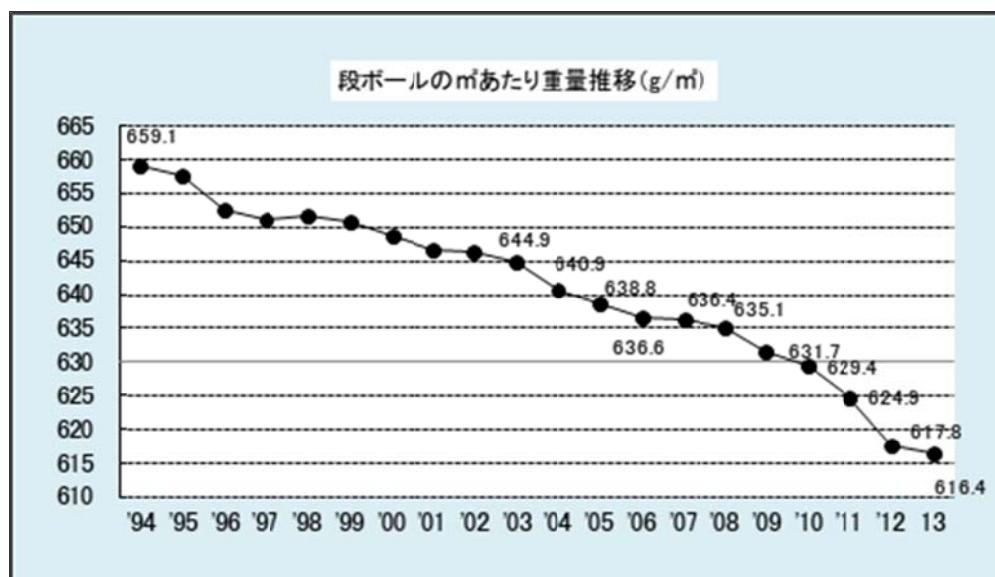


8. 段ボールリサイクル協議会

■リデュースの推進

段ボールの m^2 あたり重量 (g/m^2) は1994年の659.1 g/m^2 から2004年には640.9 g/m^2 となり、10年間で2.8%削減されていました。第一次自主行動計画ではこの2004年実績を2010年までにさらに1%削減 (634.4 g/m^2) という目標を設定し、結果は1.8%削減となり目標を達成しました。第二次計画では当初2015年までに2004年比1.5%削減 (631.2 g/m^2) するという目標を設定しましたが、予想以上に大きく削減が進み、目標を2004年比5.0%削減に修正しました。

2013年実績はさらに削減が進み、616.4 g/m^2 、3.8%削減となりました。



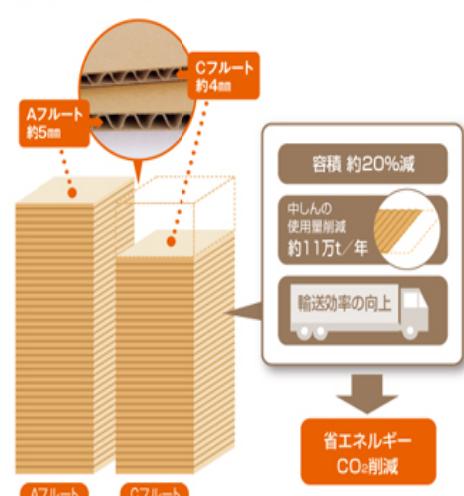
リデュース事例：Cフルート段ボールの推進

日本で主流の段ボールは厚さ5mmのAフルートですが、世界的には厚さ4mmのCフルートが主流です。

1mmの違いですが、中しん消費量を削減できるとともに約20%減容化されるため輸送効率があがり、CO₂排出量の削減にも寄与します。

段ボール業界では2005年からAフルートをCフルートへ転換する取組みが開始されました。段ボール工場で新たにCフルートの設備を導入するには大きな設備投資が必要であり、また利用事業者の理解も必要なため、一舉に転換とはいきませんが徐々に進み、10%以上は転換されていると見られます。

Cフルート段ボールの特徴



■リサイクルの推進

段ボールの回収率は2004年時点ですでに87.2%と高いレベルに達していました。自主行動計画はこの高いレベルを維持するという意味で第一次計画では90%以上、第二次計画では95%以上を維持するという目標を設定しました。

2009年の回収率が回収と出荷のタイムラグにより100%を超える異常値となりましたが、2011年実績では96.2%と通常の数値に戻っています。今後もこの完備されたリサイクルシステムを崩すことなく回収率の維持・向上を計って参ります。



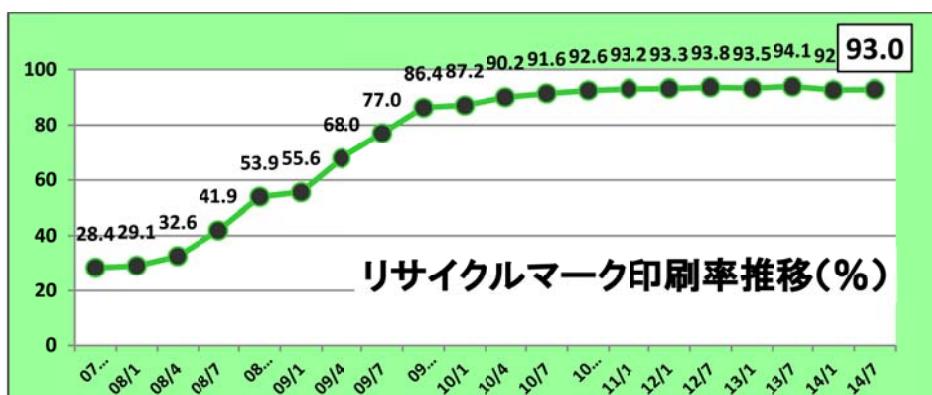
段ボールの回収率＝[A]段ボール古紙実質回収量／([B]段ボール原紙消費量+[C]輸出入商品用
・[A]回収された段ボール古紙に含まれる段ボール以外の古紙及び段ボールに付着した糊の重量を除いて計算したもの
・[B]段ボール工場における段ボール原紙消費量 ・[C]輸出入商品を梱包する段ボールの入出庫量

■段ボールのリサイクルマーク表示促進

段ボールのリサイクルマークは国際段ボール協会（ICCA）において世界共通の段ボールのリサイクルマークとされていますが、当協議会としてはこのマークを識別表示として、全ての段ボールに表示することを推進しています。



段ボール製造事業所を対象にしたマークの印刷率（マークが印刷されたケース数／総印刷ケース数）の調査結果は、初回2007年10月調査では28.4%でしたが、2010年4月調査で90.2%となり第一次計画での設定目標90%を達成しました。第二次計画では90%以上の維持・向上に取組んでいます。



■普及・啓発活動

①自治体関連施設のイベントへの協力

2014年7月12（土）～8月31日（日）に狭山市立博物館（埼玉県）で開催の「～人にやさしい、地球にやさしい～ダンボールアート展」に段ボールリサイクルDVDを貸与しました。



2014年7月に浜松市西部清掃工場「えこはま」で開催の「子ども向け講座：段ボールはリサイクルの優等生」にDVD・パンフ・ノベルティを貸与、提供しました。



②展示会への出展

2013年12月12日（木）～14日（土）に東京ビッグサイトで開催された「エコプロダクツ2013」に3R推進団体連絡会各団体と同じコーナーに出展しました。



エコプロダクツ2013

2014年10月7日（火）～10日（金）に東京ビッグサイトで開催された東京国際包装展「TOKYO PACK 2014」に当協議会も3R推進団体連絡会各団体とともに出展しました。



TOKYO PACK 2014

③紙リサイクルコンテスト2014

（公財）古紙再生促進センターが毎年実施している小中学生対象の紙リサイクルコンテスト2014に当協議会も後援団体として入賞者の選考に参加し、段ボールリサイクル協議会会長賞ポスター1点を選定しました。



段ボールリサイクル協議会会長賞



昨年の表彰式

IV 資 料

1. 数表

■リデュース実績総括表

第一次自主行動計画（2006～2010年度）

素材	2010年度目標 (2004年度比)	実 績				
		2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度 カッコ内は資源節約 量の5年間累計
ガラスびん	1本あたりの平均重量を1.5%軽量化する	1.0%	1.3%	1.4%	1.8%	1.7%軽量化 (92.2千t)
PETボトル	主な容器サイズ・用途ごとに1本あたりの平均重量を3%軽量化する	主な容器サイズ・用途15種の内9種で0.2～8.0%軽量化	15種中8種で0.9～10.0%軽量化	15種中13種で0.1%～11.0%軽量化	15種中13種で0.3%～15.0%軽量化	15種中13種で0.2～19%の軽量化。9種で3%の目標を達成。全体としての軽量化率で7.6%。 (157千t)
紙製容器包装	2%削減する	0.8%増加	0.1%増加	0.5%削減	10.7%削減	6.7%削減 (358千t)
プラスチック容器包装	3%削減する	1.3%削減	5.8%削減	7.9%削減	9.1%削減	9.8%削減 (51.4千t)
スチール缶	1缶あたり平均重量で2%軽量化する	1.0%	1.1%	2.0%	3.4%	4.1%軽量化 (49.4千t)
アルミ缶	1缶あたり平均重量で1%軽量化する	0.7%	0.5%	0.8%	2.1%	2.5%軽量化 (6.9千t)
飲料用紙容器	重量を平均1%軽量化する	現状維持	現状維持	現状維持	現状維持	現状維持
段ボール	1m ³ あたりの重量を1%軽量化する	0.6%	0.7%	0.9%	1.4%	1.8%軽量化 (529千t)

第二次自主行動計画（2011～2015年度）

素材	2015年度目標 (2004年度比)	実績 (カッコ内は2006年度からの累積削減量)		
		2011年度	2012年度	2013年度
ガラスびん	1本当たりの平均重量で2.8%の軽量化	2.0% (117千トン)	2.1% (143千トン)	1.7% (163千トン)
PETボトル	指定PETボトル全体で15%の軽量化効果	10.5% (231千トン)	13.0% (323千トン)	14.1% (333千トン)
紙製容器包装	総量で11%の削減	6.9% (504千トン)	9.9% (711千トン)	9.6% (915千トン)
プラスチック容器包装	削減率で13%	10.4% (52.5千トン)	11.5% (58千トン)	13.0% (61.7千トン)
スチール缶	1缶当たりの平均重量で5%の軽量化	4.7% (95千トン)	4.9% (115千トン)	5.7% (140千トン)
アルミ缶	1缶当たりの平均重量で4.5%の軽量化	3.0% (42.5千トン)	3.8% (53千トン)	4.1% (60千トン)
飲料用紙容器	牛乳用500ml紙パックで3%の軽量化 (2011年9月から)	0.3% (41トン)	1.0% (165トン)	1.6% (419トン)
段ボール	1m ² 当たりの平均重量で5%の軽量化	2.5% (675千トン)	3.6% (985千トン)	3.8% (1,310千トン)

■リサイクル実績総括表

第一次自主行動計画（2006～2010年度）

素材	指標	2010年度 目標	実績				
			2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度
ガラスびん	カレット利用率 (リサイクル率)	91%以上 (70%以上)	93.9% (60.4%)	95.5% (63.9%)	96.9% (65.0%)	97.5% (68.0%)	96.8% (67.1%)
PETボトル	回収率	75%以上	66.3%	69.2%	78.0%	77.5%	72.1%
紙製容器包装	回収率	20%以上	15.2% (行政回収 のみ)	15.4% (行政回 収のみ)	14.2% (行政回 収のみ)	19.1% (内、行政回 収13.9%)	20.3% (内、行政回 収13.9%)
プラスチック 容器包装	収集率	75%以上	54.0%	58.1%	59.0%	60.4%	60.1%
スチール缶	リサイクル率	85%以上	88.1%	85.1%	88.5%	89.1%	89.4%
アルミ缶	リサイクル率	90%以上	90.9%	92.7%	87.3%	93.4%	92.6%
飲料用紙容器	回収率	50%以上	37.4%	41.1%	42.6%	43.5%	43.6%
段ボール	回収率	90%以上	92.2%	94.4%	95.1%	100.6%	99.3%

第二次自主行動計画（2011～2015年度）

素材	指標	2015年度目標	実績		
			2011年度	2012年度	2013年度
ガラスびん	リサイクル率 (カレット利用率)	70%以上 (97%以上)	69.6% (95.7%)	68.1% (100.3%)	67.3% (99.0%)
PETボトル	リサイクル率	85%以上	85.8%	85.0%	85.8%
紙製容器包装	回収率	25%以上	20.7%	23.0%	23.5%
プラスチック 容器包装	再資源化率	44%以上	40.6%	40.9%	44.4%
スチール缶	リサイクル率	90%以上	90.4%	90.8%	92.9%
アルミ缶	リサイクル率	90%以上	92.5%	94.7%	83.8%
飲料用紙容器	回収率	50%以上	42.9%	44.2%	44.6%
段ボール	回収率	95%以上	96.2%	98.4%	99.4%

2. 各団体連絡先一覧

ガラスびん3R促進協議会（1996年11月19日設立 2014年11月19日組織名称改定）

東京都新宿区百人町3-21-16日本ガラス工業センター1階

TEL : 03-6279-2577 FAX : 03-3360-0377 ホームページ : <http://www.glass-3r.jp>

PETボトルリサイクル推進協議会（1993年6月22日設立）

東京都中央区日本橋小伝馬町7-16ニッケイビル2階

TEL : 03-3662-7591 FAX : 03-5623-2885 ホームページ : <http://www.petbottle-rec.gr.jp>

紙製容器包装リサイクル推進協議会（1998年2月5日設立）

東京都港区西新橋1-1-21 日本酒造会館3F

TEL : 03-3501-6191 FAX : 03-3501-0203 ホームページ : <http://www.kami-suisinkyo.org/>

プラスチック容器包装リサイクル推進協議会（1998年4月15日設立）

東京都港区西新橋1-1-21日本酒造会館3F

TEL : 03-3501-5893 FAX : 03-5521-9018 ホームページ : <http://www.pprc.gr.jp>

スチール缶リサイクル協会（1973年4月17日設立）

東京都中央区銀座7-16-3 日鉄木挽ビル1階

TEL: 03-5550-9431 FAX: 03-5550-9435 ホームページ : <http://www.steelcan.jp>

アルミ缶リサイクル協会（1973年2月7日設立）

東京都中央区銀座4-2-15塚本素山ビル6F

TEL : 03-6228-7764 FAX : 03-6228-7769 ホームページ : <http://www.alumi-can.or.jp>

飲料用紙容器リサイクル協議会（1997年3月18日設立）

東京都千代田区九段北1-14-19乳業会館 4 F

TEL : 03-3264-3903 FAX : 03-3261-9176 ホームページ : <http://www.yokankyo.jp/InKami/>

段ボールリサイクル協議会（2000年3月7日設立）

東京都中央区銀座3-9-11 紙パルプ会館 全国段ボール工業組合連合会内

TEL : 03-3248-4853 FAX : 03-5550-2101 ホームページ : <http://www.danrikyo.jp>

3R推進団体連絡会ホームページ : <http://3r-suishin.jp/>

3R推進団体連絡会 第二次自主行動計画
2014年フォローアップ報告（2013年度実績）

2014年12月

3R推進団体連絡会

ガラスびん3R促進協議会
PETボトルリサイクル推進協議会
紙製容器包装リサイクル推進協議会
プラスチック容器包装リサイクル推進協議会
スチール缶リサイクル協会
アルミ缶リサイクル協会
飲料用紙容器リサイクル協議会
段ボールリサイクル協議会
